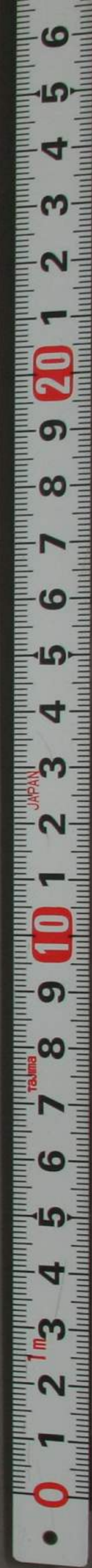




職原鈔
一

73
6387
1



78
6887
1

皇朝史畧序常陸藤田正ノ序中ノ文亦
中後深一位在南北騷擾之際
崎嶇間閔與寓吾常陸忠貞之
節百折不撓雖身在外乃心
王室廼有正統記及職原鈔之
作其所以存國弊修廢典者
千古寥寥絕無而僅慶元以來
文運勃興天生我義公於常陸英

職原鈔上

去五味均平藏

此書北畠大納言源親房卿ノ撰メル也北畠

云家ハ村上源氏ニシテ村上天皇第七皇子中務卿
具平親王十二世ノ後也本家ハ又我ニシテ又我ヨリ中
院中院ヨリ北畠ノ家分レ父ハ大納言師重ナレ故
有テ祖父大納言師親ノ子トナリ幼年ヨリ次第二
官位昇進滯ナク九十一代伏見院後伏見院後二條
院花園院後醍醐天皇五代ニ仕ヘ後醍醐天皇御子
世良親王薨去時出家シテ法名宗玄時二三年



八歳其後南朝ノ帝後村上天皇ヨリ准后タルヘキ
由宣下有シ故是ヲ准后入道ト号ス今ニ北畠准后
親房ト浴ニヨヘトモ南朝ニテ宣下ノ官ハ當朝ニテハ
憚ルヘキ又ナレハ准后トハヨビカタシ只入道大納言
親房卿ノ撰スル処トノミヨブヘシ北畠ノ家親房卿
ノ嫡子ハ奥州ノ國司トナリ玉ヘ任撰津國安倍野
ニテ討死中納言顯家是レ也弟顯統伊勢ノ國司ノ
祖ニテソレヨリ代々相傳ス其北公家第一ノ大身
タリ木造龜谷十ト云北畠ノ分レノ家有タレ任本家

ト共ニ永祿天正ノ間ニ亡テ今ハ北畠黨断絶ス世ニ
写本ノ職原鈔二部傳ル一部ハ奥書ニ顯統トアリ
一部ハ親房五世孫教具ノ奥書也是ヲ顯統本教具
本トテ少々文字ノ違アレ任大ナル違ハシ別ニ材親本
トテ有リ奥書ハ北畠材親トアレ任顯統ノ本ト少モ
タカハス百年前迄用ヒタルハ顯統本ノミニテ京都書
林ニモ二十年計以迄迄ハ顯統卿奥書ノ写本多ク
有タル也今ノ世ニ行ル板本ノ本文ハ古文ト相違
スル莫多シ是レ出納豊後中原ノ職忠ト云ヘル者ノ

増減ニテ添削^{テニサク}ヲ心ニ任セミタリ成事^{ナル}ナトモ書入
レ舟橋秀賢ト云堂上ノ人ニ奥書ヲ請ニ板行
セシモノ也其門人平田小野富田植木玉井ナト云
人々鈔物ヲ編講談セシ也世ニ傳ル処ノ説比皆是
ヨリ分レ官職ノ學問大ニ乱レテ其本義ヲ失ヒ
来ル職原鈔大全ハ右ノ植木氏ナリ是レハ藤堂
波渡守ニ仕ヘ子孫今ニ勢^{ヒサ}凡^ハ人居ニ仕リ頭書^ヲト
号スルハ下ノ冷泉^{シモ}ノ中興惺窩^{セイ}先生ノ著^{アラハ}ス
所ナレ氏此人久ク地下ニ落テ僧ニニ有

ニカ後儒者トナリ徳川家ノ恩顧^ヲニヨリテ下冷
泉ト云家ノ絶タルヲ起シタレハ官職ノ學問ニハ
甚ウトシ矣考ハ宇都宮由的コレバ々官職ノ學ハ一
向不案内ナレハ右ノ大全ナトノ抜書ナリ別ニ職
原鈔ノ聞書トテ林春齋ノ説ヲ書キタルモノ
板本ニ有リ其ノ論不堪抱腹別勘ト云ハ四
巻有テ立野春節ト云人ノ作ル処是レハ取
ヘキ夏十ガ三四有リ私説ト云書サテニ論ズ
ルニタラズ右各中原ノ職忠^{モト}ノ私意ニ任セテ

損益シタル俗本ニシタカツテ註シタル書目十
レ其ノ註可用理ナシ右職忠ノ弟子平田
外記松平加賀侯^{コウ}ニ仕ヘテ在京ニ其ノ弟子
河内ノ人壺井安左衛門義知師ノ学ヲミ
カギリ旧記ヲ徵^{シル}シトシ俗本ヲ彼顯統本
ニ校合シテ正シ四方ノ門徒ニ對教スル
ヨリ官職ノ学大ニ闡^{モラケ}テ古^{イニシヘ}ニ遠^{カヘ}ルモノ
多シ壺井氏ノ功亦大ナラズヤ然ルト云ヘ凡
壺井氏文字ノ学ナキ人ナリニ故異ハ朝ノ

旧例ヲ引ニ至テハ不覺ニテ誤ルコトモスクナ
カラズ日本ノ官職ハ周官唐官コノ二代ノ
官ヲヨク覺ヘサレハ解シカタ~~周官ハ周禮~~
ニヨリ唐官ハ唐書ノ百官志ニヨルトイヘトモ夕、
周禮百官志ノミニ勘ヘテハ注官ノ故實心ヨ
クハ通ジカタ^シ唐書ノ全篇ヲ考ルトキハ其ハ
人品行跡ニヨリテ注官ノ次第モ自ラ通ス
其ノ外ハ杜祐通典ナドヲ始メ官職ノ更ニ工
タル書教十部有リ是等ニ考ヘ合セサレハス

ニカタクシ但シ大全参考、如ク異國代々ノ官
引テ論スル時ハトリシメナク本文ニモ叶カ
タシ唐ニアハサレハ周ニカニガフヘシ是日本ノ官
職ヲ異國ノ官職ニ考ヘ合ス法ナリ右中原
職忠ト云ハ其ハ先祖ヨリ藏人所ノ出納ノ家
筋ナレ氏永禄天正ノ乱世ヨリ家領ニ放シ
落ラクシテ其ハ父一條通リノ西ニ東ニ足袋ヲ縫事
ヲ業トシ甚タ貧窮ニ處スコ、ニ江品坂本
西教寺ノ僧ナリ出京ノ時ハ彼ノ足袋衣ヲヒ

サツ家ヲ主トス職忠カ童形ナル時義兄義
弟ノ約ヲナシ其ハ家ノ衰ヘタルヲ能ク聞入レ後
関東ニ下リ家康公ニ仕ヘ南光坊天海ト号
シ家康公ヲ東照宮ト崇メ奉ルトキ別當職
ト成リコノ勢ヒヲ以テ公儀ヘ言上シ職忠ヲシ
テ日光造立ノ諸事ヲ京都ニオイニテ司ツニ
ム其上昔ノ家ヲ興オシ出納トシ地下没人ノ
藏人クヲト称スル者ハ皆此支配ニ属ス職忠剃
髮スニテ萃庵ト号シ後ハ近衛殿ヘ寄人トナリ

テ今テニ其ノ家出納ニテ近衛殿ノ寄人ナレモ始ノ
間ハ勸修寺殿ノ寄人成シカ官職ノ及ニツキア
マリ文盲ナル者又ヲ申シテ勸修寺殿ニアザケラ
レ夫レヨリ舟橋家ノ弟子トナリ舟橋秀賢ト
相談ニテ古書ヲ我カマニ増減シテ板行シタル
本今通用ノ職原鈔コレナリ

大全矣考以下ノ説此書ハ親房卿和乃芳野
ニ百テ撰スル処ト云壺井氏ノ説ハ常陸國小田
ノ城ニオイト是レヲ撰シ此時同ク神皇正統紀ヲ

モ撰シ共ニ南朝ノ天子後村上天皇ハ獻上ノ書ナ
リト云壺井氏ノ考ニ曰下卷ニ親房ノ自著ノ跋
アリ其ノ文在ニ逆旅トクシハ一卷トクシハノ末書云其逆旅
ト云又ヲ證據ニトリテ逆旅ハ天子ノ思ヒノ外ノ
旅へ出テ給トクシハ茂ト史漢ナドヲ引テ論シ叔同
人ノ撰スル処正統紀ニ芳野ハアサニシキ所ナ
シ共三種ノ神器マシマセハマコトノ都ナレ由
ニエタリルヲハナシ芳野ヲサシテ逆旅ト
書トクシハメハハニヤ常陸ノ小田ノ城ニテ撰シ給

フ夏ハ後村上帝貞國二年庚申二月下旬ノ
刻ナル由アル軍書ニ見エタリト以上壺井ノ
説シ壺井氏著ス職原鈔并疑聞表シノ論也
弁疑印本 秀樹ヲモツク謂右下ノ卷ノハツヲ證トスルモノ
ナラハ其跋ノ發端ニ或アルヒト請聞官位日升進之
次第ヲト書出シテ其ノ文續ツキニ十二ヲ云テモ
逆旅ニアツテ一卷ノ書物モ無クユヘト七
ケノ詞ヲ載タリ後村上天皇ヘワサト撰
テ奉ラントスル跋ニ十二ソアルヒト請聞シ聞ト

無礼ノ文アラニヤ又或軍書ニ見エタリト
云コト證據ニナリカタシ世ニ南朝紀傳ト
号シ南朝ノコトヲ少々聞傳ハヤウニ書
タル物有リ南方紀傳ト題シタルモノ有リ同書
也板本ニハナシ 此書ニ壺井氏ノ説ノ如ク見エタ
リ然レトモタシカ成ル書トモシカタシ其ハ上
親房博覽ノ人ニアラス学文ノタケハ職原
鈔ノ文字ノ顛倒錯置ニテシルヘシ逆旅ノ
字シ能ク心アテテ字義ヲ正シテ書玉ハニヤ

天皇平安城ヲ去テ芳野ニ自由ナル所ニ
一^レシノ^レテ逆旅ト書玉ヲナルヘシ芳野ニ高水
院ト云寺アリ今ハ是^レシ芳野寺ト号ス其
寺ニ親房自筆ノ草稿ノ職原鈔有リ先
年関東ヘモ召^レシ大御所様台覽ニ及^レテ由此
草稿芳野ニ有^リテ写^シミシハ昔ヨリ申傳
説^{ヨロシキ}宣^ニ似^テテ壺井氏ノ新説ノ好事ノ説
ニワタルヘシ右芳野寺ハ後醍醐天皇芳野
ニ御座^ノ時ヒソカニ山ヲアリカセ給^ヒ此寺

ニハラセ玉ヘハ住持宗信出タルニ天皇〇ミ
ヨシハ、山ノヤ^テ守コト、ハニ今テイクカアリ
テ花ハサカナシ宗信返^シ〇花サカナコロハイツ
トモ白雲ノ^イルヲシルヘニニ芳野ノ山其ノ後
皇女ヲ宗信ニ下サシ妻帯ノ寺トナリタル
夏芳野拾遺ト云書ニ見^ユタリ^{板本}然^シハ
芳野寺ニ南朝ノ書ノ残りタルモ故ナキニハ
ア^ラフ^ニ但^シ芳野寺今ハ清僧ナリ

職原鈔 此題号ハ後ニ置タルモノニテ親房ノ

ヲカレタルモノニテハ十三殊ニ此書ニハアハ又

題号ノ由唐ノ職源 金華ノ王壺之著スル 宋ノ職源 杜英之ノ所著

右二本ノ題号シカスメテ職源ト置タレ右

二本ハ官職ノ起源ヲ書タルモノニテ今此書

ハ起源ヲ本意トセズ官位昇進ノ次第ヲ專

ラニノヘタルモノナリ然ハ親房ノ本意ニハア

題号考

ラカレ題号也 以上壺井氏説 右ノ通リナレトモ顯

統本ニモ職源鈔トアリ芳野寺ニアル古本ニ

モ職源鈔トアリ古本ニハ題号ナキヨシ壺

井氏説レタレトイニ題号ナキ本ハ不見コノ

唐ノ職源ノ題号此書ニアフト不合トノ

議論ニ直ル程ノ親房ノ學者ノ心得テト

リハセハ疑ヒ起ル者ナリ親房サホトノ

學者ニテハ十三唐宋ノ職源ヨキ題号ト

心得テ置レタルベシ唐ノ職源ハ絶テナ

シ宋ノ職源ハ写本ニテ書林ニ多ク有リ宋

ノ官ハ唐二本クト云ヘ比大ニ替リタル所ア

リテ唐ヲ以テ模シタル日本ノ官ニハ合カタ

キ書ト見ルベシ

職 職ハ司也掌也ト註シタル字ニテ其没々ノ
ツトメ方ト云義也

原 原ハ源ト通ス事物起原ナト云原ニテ可

知

鈔 鈔ハヌキガキト訓ス官職ノ事ヲ諸書ニ
テ見タル覺ノタケヲヌキガキシタルトノ題号
也然ルモ令ノ義解ヲ始少々引レタル書
モシヘタレ凡亂世ノ支ト云芳野ニテ不自由

官職秘鈔

十ル節ナレハ日本書紀以下ノ六國史モ十カ
リシヤ六國史ヲ通編シタル畧書帝王編年
紀抄云書ヲ以テカ、レタル支多レ其年紀
抄ヲ誤リヲカレシハ編年紀ノ誤リヲ写サレ
シユヘナリト可知官職秘鈔上下二卷參議平
基親アラハス板本是ヲ全体ノ手本ニシテ
書メルモノ故神祇官ヲ上卷ノ初メトシ彈
正臺ヲ下卷ノ始トス官職秘鈔
其通也然ニモトハ一
冊ニテ後上下二分ツ由講スル説ハ不可信

百官 日本ノ官ノ數百アルト云義ニテハ無朝
廷列官數多キト云義ヲサシテ百官ト云然
レハ百ハ衆也ト心ヘシ周礼ノ官三百六十官ナレ
凡百官ト書シ論語ナトニモ百官ノ富トシル
ニ唐書ノ類ニモ其外歴史ニ百官志トアルモ
ノ百ノ數ニ不限ニテ知ベシ壺井氏曰禁中シ
百數ト云ハ百官ノ座ヲシカル、故也云是ハ二
條關白良基公ノ書玉フ百寮訓要鈔ニ出タ
ル說也彼鈔ハ印本ニ有考ミルヘシ然トモ

此說アヤミリテ信シカタシ内裏シ百數ト
云身ハ往昔神武天皇以後代々大和ニ都
ナサレ百世磯城ノ都ヲハナシ給サルトノ祝語
ニテ百磯城ト号ス今和ノ城上郡城下郡
ト分レタルハ古ノ磯城ノ郡ニテ其比鄰シ
カシココ、ニウツサル、ト云凡此郡ハハナレズ
磯城ハ石ヲ以テ惣カコイヲナシタル心ニテ都
ト云ノ義磯ヲシトヨムハ石ノ上畧也平安城
ニ成リテモ其語殘リテ禁中ヲ百磯城ト

云百敷トカクハ讀ヲカリテ書タレ者也百
官ノ座ヲ敷ルト云説實ニオホツカナシ

推古天皇御宇 二十代 欽明天皇ノ皇女ニシテ

異腹ノ兄三十一代敏達天皇ノ后トナリ後天子ノ

位ニ昂二十四代ノ主トス日本書紀ニハ御謚ヲ

豊御食炊屋姫尊ト書タリ其ノ千漢文ヲ以

テ先主ニ謚スル時改テ推古天皇ト号ス是

日本書紀撰出ヨリ後ノ夏ナレハ日本書紀ニ

ハ不見後人推古天皇ト小字ニ書入ヲキタリ

スベテ生兼ノ行ヲ以テ謚ヲ定ムカレ故ニ

推古トハ黄石公カ素書ノ字ニテ推古及

後ノ義推古トハ吾邦此時迄官職ヲ分チ冠

服ノ制アル夏ナシコノ天子ノ時始テ冠位十

二階ヲ定ラレ其次第ノ立テ様吾邦ニテハ

神代面足惶根迄ノ六代ヲ五行ノ序ヲ以

テ冠位ヲ次第シ異邦ノ例ニテハ書經ノ周官

ニモトツキ其古ノ五行ノ序ヲオシテ後世ニ及

スハ義ヲ以テ推古ト云字ヲトル壺井氏ノ

説此トキ旧事紀古事紀ヲ撰レシニヨリテト云
案^{スルニ}旧事紀ハサセ百ヘシ今傳ル所ハ
萬書也古事紀ハ文武

天皇ノ御時ヨリモ其撰始リテ後和銅年中
二成タル書ナレハ推古天皇ノ謚ニハアツカ
ルヘカラス又案ニ神代天照大神女帝トシテ
天下ヲ有ス神代卷ニ新掌^{ニイナメ}ニ給トアリ人皇
ニ成テ神功皇后位ヲシリ給テ夏六十歳ニ
ア^下レテ新掌ノ義ナシ故ニ皇后撰政何年ト
記テ天皇ト紀セザルモノハ躬燧ヲキツテ

御先祖へ新掌ノ義ナキ女帝ナルヲ以テ也
推古天皇ニ至テ女帝トイヘテ天照大神ノ故
事ヲ推テ燧ヲキツテ躬祭リ給フ故ニ豊臣御
食炊屋姫尊ノ謚百リ其神古ノ故實ヲ推
シテ用玉ヲヲ以テ推古ト謚スルノ一説百リ
天皇俗説ニ天照大神ノ天ノ字ト高皇產靈
ノ皇ノ字ト合セ天皇ト申ス故ニ吾邦ノミニ
テ異國ニハコレナキコト云以上高井氏ノ説ソレ異
邦ノ古へ天皇氏地皇氏人皇氏ヲメテ、盤古

ヲ天皇氏トス夫ヨリ代々同血脉ノ人位ニ昂ニ
アラス代カハリ時移ルニツキテ次第ニ種姓変ニ
來ル吾邦開闢以後百五血脉ヲ草々ズ故ニ異國
ニ比スルニ天皇氏ノ終ニテト云フ義ニテ天皇ト書
スコ、ヨリテ万葉集ニハ人皇ノ御代々ノ天子ノ
御コトヲモ惟神ト書テカミナガラトヨミテ天子
ヲ直ニカミノマ、ト云心ニ申傳^{ツヤウ}令ノ文ニハ明神ノ
御傳^{ニシメス}ト宣命ニ書キ事ヲノセ明神御宇ヲアラ
カ^{ニシメス}ミノミヨシロシメスト讀セタリイツレモ統
ヲカヘサルカ故異國ニテ云ハ、天皇氏ノ終ト云
義^{ニシメス}成入^{ニシメス}天ノ字皇ノ字ヲニ神ニトリタ
説難信^{ニシメス}御宇ノ字ハ宇宙ノ字ニテ四海宇宙
ヲ統御シタマフノ義日本書紀ニ御宇ノニ
字ヲアノメ^{ニシメス}シタシロシメスト讀セタリ

聖德太子^{ニシメス}コレ用明天皇ノ第一ノ白皇子名ハ厩
戸後ニ聖德王ト諡ス太子ヲホメテ日本書紀
ニ以^テ玄聖德^ヲ生^ル于日本國トアル字ヲトリテ後
ヨリオノリタ^ルル^ルへ^シ今ノ集解ニ諡^ト聖德王

云親房卿聖德ヲモツテ諱ノ由神皇正統記
ニ載^レラレタルハ不審推古ノ爲ニハ甥也推古
女主ニ立チテ既^ル戸ヲ立テ太子トシ政ヲ撰^シサ
レ試テ天下ヲ讓^ラントス太子和訓ヒツキノ
ミコ天子ヲ日ニ比シ其跡ヲツグノ義神代ニ
太子ノ字ヲ不見太子ト云ヘキ程ノ義ヲ連^レ日
トカキタリ十分日德ノ取カタト云心十ルニヤ
神武紀ニ始テ太子ノ字アリ

撰政^ハ撰^ハカヌル^レ臣^トサ子^ルトセヨセ一功ノ政^ハ此
人其根本ヲ撰^シ行^ノ義^ヲサ子^ト云ハ日本書
紀ノ古点ナリ^{ナリ}猶^{ナリ}總^ノ其^スス^エイ^ツ筋^ニモ分^レ
テアレ^レ臣^ト其^ノ根^ヲ撰^シメテ一^所ニ集^メトリ行^フト
云ニカ如^シ古ノ撰政ト云ハ御跡ヲ讓^リ給^フヘキ太子ヲ
シテ當^テ天子^ニ成^リカハリテ天下ヲ理^セシメ
コ^ノロ^ミテ其^ノ帝^崩スル時位ヲ其^ノ太子^ニ讓^ルモ竟^ル
ノ寧^ニ讓^シタメニ撰政サセ舜ノ禹ニ讓^ラニ爲^ニ政
ヲ撰^セシメ日本モ其^ノ通^ニテ有^ニ俗^是ヲ試^シ撰政ト

云周ノ武王崩シテ周公旦成王ノ幼ナルカ故政ヲ
アツカリシヨリ試ニアラサルノ撰政起リ日本ニテハ
清和天皇幼主ナル故外祖藤原忠仁公撰政ス是
ヨリ臣下ノ撰政起リ位ニ在位ノ撰政ト云其撰政ニ
成ヘキ家ヲ今撰家ト云中右記 松本政家ニテ小右 十三撰家嫡
庶ナシ時ノ官ニ隨フ由ニヘタレト其家ノ次第ハ近九
二一鷹司ト覺ユベシ推古帝ノ時既戸政ヲシル君
ハコレ推古政ハ聖德ヨリ出ルノ第十二歳ト云義ナリ
日本書紀ニ八十一年十月ニ冠位ヲ定ムトアリテ

良房諡
忠仁公

十二年正月ニコレヲ臣下ニ給由見エタリ親房
卿ヲシテ合文ニテ給リタル時ヲサシテ定ムト
書レシ也是迄ハ日本ニ官職ノ次第ナシトハ云
氏時代ニヨリ其人ニヨリテ或ハ棟梁ノ臣或ハ
瓜牙ノ臣ナト云又国史ニミエ又大連大臣ヲ以
テ座ヲ分ツ又ヲ載タリ然ハアレト揃テ列冠
ヲ定ムル、又ハ此冠位十二階ニ始ル職原鈔
ノ魚句ク讀明トウカナラス始テ定メトヨム始テ才
クド讀メキモ也撰政ノ義モシ給トヨムニ及

ヘカラス撰政トヨミ功ヘシ速水氏校訂ノ本ハ
壺井氏ノ点ノ終ナルカ改テ板行スルモノニ
ナニソ句讀ヲ弁ヘサルヤ

冠位十二階 後世ノヤウニ官ト位トヲ分テ名ス
ルニ非ス冠ノ色ニヨツテ座次ヲ分別セラル、
迄ナリ其冠ノ制只中キスヲ以テ髪ヲ包ミ中ニ
テク、リアマリタルモノ後ヘタル、ヲ纓ト云
元日及賀日ニハ作リ花ヲサシソヘタル由
其体委シク日本書記紀推古十一ノ十一月十二ノ十二月ノ

卷二見ヘタリ其冠ノ次序徳仁禮信義智此六階
ニ大小アリテ十二トス北史ニ日本ノ冠位ヲ議シテ仁義禮
智信トヲカサル夏ヲアヤシミ徳名ノ次第ヲモ不知
ヤウニツシリシヲ松下見林異称日本傳ニモ
氣毒ナルヤウニ書レシハ甚々不審六經ニ仁義
礼智トヲキタル例ナシ孟子ニ始テ仁義禮智
ヲ四字ヲ列シ前漢書董仲舒カ傳仁義禮
智信ト五字ヲ列ス夫モ義ノ字ヲ誼ニカキタ
以白虎通ニモ仁義礼智信ノ字ナリ是ヨリ

古キ書ニハナシ然ハ仁義礼智信ト列タルハ
漢ノ班固ニ始ルカ周官ハ鳥ヲ以テ名ク鳥ハ
鳳ニシテ鳳ノ頭羽足尾ナト二十ソラヘ德仁禮
義智ノ次第ヲ立ラシメ周官ニ考見ル
ヘ日本ニ其通ニテ仁禮義智ト置テモハ
古義也ナニソ漢以後ノ列^例ヲ以テ論セニヤ素
ヨリ仁冠ト云ハトテ是ヲ著タル者仁德ヲ行
没ニテ七十ニ智冠ト云ハトテ智アル人ナルニ
ヨリテ此冠ヲユルサルト云ヌ七十ニ夕、名目

ヨカリテ名タルモノニテ後世市街ニ商^ノ人其
セサクモノニ符牒ト云モノヲ拵ヘテカリニ
名スルカ如ク德仁礼^信義智ノ名ハ冠ノ色
ニツキテノ假ノ名トミルベシ重ク德ニカリ
テ論スルヌナカレ○紫是ハ赤ト黒トノ相合
テ色ヲナス陰陽不相分ノ合德ト云義ナリ
イマ夕其也ヲ何トモ不分始ノ義ニテ夕トハ
神代ニテ論スルニ國常立尊ノ如ク五行ヲ
及ヘテ夏ヲ始給德ニ比シテ其コキ紫ヲ大

德冠トシウス紫ヲ小德トスト心得ベシ
或問紫ハ間色ニシテ聖人其色ヲ惡ム何ソ朝
服トスルヤ答曰聖人ノ惡ム処ノ紫ト朝服ノ
紫トハ別也紫蘇ヲ以テ染ルモノ一種又スオウ
茜アサギイシ石灰バイニテ其合色延喜式ニ見ヘタリ合染ニ
スルモノ一種故ニ哥ニモ紫ノキ又紫ノ衣トヨ
ムハ朝服ノ合染也紫ノ根ズリノ衣トヨムハ
紫草根ヲセシニ其根ヲスリ付テ染ルモノ今
是ヲカヘツテ本紫ト号ス古今和哥集ナト

ニ紫ノ根ズリノ衣色アセテトヨミシハ是ナリ
朝服ニ用ル処合染ハ赤シノ勝シタルモノ也然レ同
類ノ染色ナレハ聖人ノ語ヲサケテ異邦ニモ
紫ハスヘテ女服ノ外ニハ不用隋ノ煬帝ヨリ
合染ノ紫ヲ朝服トス隋書ニ見ヘタリ推古ノ
時隋ノ煬帝ノ時ニ尸タル隋服ヲ摸シテ製
セラレシ故ニ紫ヲ以テ諸ノ上ニ置トシヘタリ
紫ノ染色也ナリ故實有夏也古ノ一位二位ノ
服ナト紫ト心得テ根摺ノ色ニ正カキタラニ

抱腹ニ不絶ヘシ

○仁冠青色ナリ是ハ仁德ノ義ニテハナシ本
ハ東方ノ象又五常ヲ四方ニ配スル時仁ヲ以
テ東トスルヲ以テ青キ也ト云シタメニ仁冠ト
号ス東冠青冠ト云ニ等カルヘシ仁ノ字ニツカ
キ心ハナシ國狹植尊ニカタトリ木德ニ比ス

○禮冠南方火德赤也礼ヲ以テ南方ニ比スル
夏古来ヨリノ義礼ヲ明ニスルカタメニ南方ノ
象トス神代ニテ豊斟淳尊ニ比シテ南方火

德ニ象赤冠ヲキウスキニテ大小アリ

○信冠中央土德黄色ウイチ泥土者炎尊沙土者炎尊

ニ比ス
○義冠西方金德白也大戸之道尊大苜邊尊

ニ象ル
○智冠北方水德黒也面足尊惶根尊ニ象ル

各コキウスキニヨリテ大小ノ名ヲ設タリ
右ハ次第ニテ上ニ五ノ行具足ノ此系冠ヲ置夫ヲ
以木火土金水ト相生ノ次第ヲ立朝廷ニ列

及此時上ヨリ下ヨリ生ニテアヤレミ冠セサルノ義
トスモシ仁義礼智信トオカハ仁ハ木徳義ハ
金徳金冠木ト冠スヘシサレハ堂上歳賀ノ屏
風ニ色紙ヲオサレ、法青赤黄白黒トオサレ
ハナリ是相生ノ次第ナリ青黄赤白黒ト置
テハ先ツ始ノ青黄ニテ木冠土ト冠スノツレ
モ十二階ノ故實ト見ヘタリ但黄袍ハ後ニ無
位ノ服トナリ黒服ハ喪服トナリ青キハ六位
ノ服トナリ赤ハ四位ノ服トナリ是モ
後世ハ五位
ト赤ヲシ

テ四位以上アヤレツテ
黒服ヲ著ス

此紫ハ三位以上ノ服トナリ白服ハ一
向朝廷ニコレナク如此十二階ノ時ト次第ノ轉
ニタルハ四十二代文武天皇ヨリ漆塗ノ冠ヲ始
メ冠ニテハ次第ヲ不分上下同冠ニシテ袍ヲ
以テ位次ヲ定ルニ至リテ如此十二階ノ階ハ下
ヨリキサミ上ニテ位ニス、ムノ義ソレユヘ和訓キサ
ミト訓ス源氏物語桐壺ノ卷ニキサミノ位ト
アリ是桐壺ノ更衣果給ヒテ主上ナゲカ
玉ヒ今テ一階ノ位ヲモス、メハヤト思シニトノ

御物語也俗流二一階ヲ一ハシトヨセタル点
アリ呵々

孝德天皇 三十七代ノ主也敏達天皇ノ曾孫ニ
シテ第^弟淳王ノ御子也姉皇極天皇ノ讓ヲ
ウケテ天子ノ位ニ即此天子ノ傳ハ大政官ノ
篇ニ才イテ弁スベシ其始ハ輕ノ皇子ト号ス
此時蕪我入鹿ヲ亡シテ天下王威ニ化スルト
云ク我ニテ始テ元ヲ建大化トス是年号ノ始
ナレ共コノ、子朱鳥白雉ナト云或ハ才カレ

或ハヤメテシタル故今日迄年号相續ノ始ハ四十
二代文武天皇ノ大宝ヲ用ユ大化ハ其起原ト
ノミ云ヘシ始メト云ヘカラス
始置八省百官 八省ハ中務式部兵部治部民部
刑部大藏宮内ノ八省也此八省ノ下何寮何司
ナト、云テ諸設所アリサテ此八省ヲハナレ
テ外ニ七官舍アリ又外国ノ官有リ是ヲス
ヘテ百官ト云孝德帝ノ時今ノ如ク八省百官
ノロイタルニハ非ス其前ヨリアル官舍七間

日本書紀ニ見ヘ是ヨリ後ニオカレタルモ有
レモ大概ヲ云時ハ此時諸没所極リタル也是
昂大化五年ノ羨ニテ孝德帝ハ治世十歳又
位ヲ姉ヘ譲リモトシ皇極帝重祚コレヲ
齊明天皇ト号ス

先是是ト云字ハ景行天皇成務天皇仲哀天
皇ノ時代ヲサス旧事紀并ニ延喜式ニソヘタル
公卿記ト云モノナトヲ見レハ夫ヨリ始ノ段
々大臣大連ノ官ニ任タル人々見ヘタリ然レモ

日本書紀ニ不載タ、天下ノ政ヲトル人ヲ
上代ハ大連ト号シ武内宿祢以後上代ヨリノ
執政ノ家ニ非ル人ノ政ヲ專ニスルヲ大臣ト号
ス神代ヨリ相傳ノ家ナレハスヘテ是ヲ連ト
号シ其宗トスル人ヲ大連ト大ノ字ヲ加フ武内
以後タトヘ其身ハ皇孫ノ血脉タリモ神代ヨ
リ相傳ノ大連家ニアラサレハ惣テ是ヲ臣ト
号ス其宗トスル人ヲ大臣ト号ス上古異国ノ
風ヲ移サル、時ノ連ト号スルハ異国ノ風ヲ

移シテヨリノ臣ト云ト同義ナレト猶後追モ
連ト臣トヲ分テ政ヲ執人旧臣ノ家ニテハ大
連ト号シ新家ノ輩ハ大臣ト号ス後武將ノ
末裔蘇我敏系昌シテ第一ノ大連家物部
氏衰へ猶新家藤原氏栄へテ大臣ノ号重ク
ナリ大連ノ号ハ自ニ止リ又藤原モ神代ヨリ
ノ旧臣ニシテ其先祖神事ヲ司ル是モ中臣
ノ連ト号ス後藤原ニ改テ政ヲトル又ハ上古ノ
風ニアラサル故政務ニカ、リテハ新家タルニヨウ

テ大連ト任セス中臣氏モ終ニ連ト云号ヲ改
メテ臣ト号スルヤウニ成来レリ大連小連ヨ
ク衆ニ居ルト異国ノ書ニモ載タルハ小連ハソ
子ノ連ニテ大連ハ其頭タル故ナリ然ハ武内
以前ニハ大臣ト云人ハナシ誰ヲ以テ大連トスト
云莫ハ有リ是全ク官ト云モノニテハナシ朝廷
連臣ノ頭ト云計ナリ然ニ旧事紀公卿記ニ其
然ニモ記サス官ノヤウニ書ナシタリ延喜式ハ
正敷書ナレト公卿記ハ後ニ書入タルモノニテ

證トシカク殊ニ今流布ノ旧事紀ハ巫祝家ノ
偽作ニシテトルニタラス夫ニ有トテ武内ヨリ
以前ノ事ヲ官ノヤウニトリ用ヘキヤウナシ壺
井氏職原鈔弁疑ニ武内ヨリ以前ノ大連大臣
ノ例ヨリ上テ記サレ別テ其考ノ書ヲ秘スルヤウ
ニセラレタルハ誤ト云ヘキカ

孝徳ノ時高向^{メカハル}玄理ト云人唐ニ入テ學問ニ歸
朝ノ後異國ノ官ノ風氣ヲ覺タルニ^{ビシ}是ト云僧
博職ニシテ故實ニ違タル人ヲ加ヘ官舎ノ号ヲ

建古ヘノ冠ニテ次第ヲタテラレタル又ヲ止メラシ
タルト見ヘタリ但シ是モハ省ヲ置ル、前ニ十三
階ノ冠位ヲ定メ名目ヲ推古ノ十二階トハ改メ
替ラレタル又日本書紀ニ見ヘタリ^サ稗我ノ入鹿
ヲ大錦冠鎌足ヲ大織冠ナトニ仰付ラレシ
ト云是冠ノ織物ニヨリテ名ヲ設タルモノニテ
十三階各此類也武内ノ宿禰ハ人皇八代孝元
天皇八世ノ裔稗我石川紀安倍ヲ始メ此末流
甚多シ景行天皇ノ時造ハ政務ニ預ル人ニアラ

ストイヘ氏成務天皇ノ部屋住ノ傳設ヲ勤
成務天皇ヲシテ武勇成ル詞ヲ朝廷ニテノ
ベサセ太子ニシサスル義偏ニ此人ノ功ニ有トテ
景行天皇是ヲ賞シ棟梁ノ臣ト云ニ任セラレタ
ルナリ公卿記旧事紀十トニヨレハ是ヨリ前ニ
棟梁ノ名アリ或ハ爪牙ノ臣ト云ナトモアレ氏
右ニ弁スル如ク今是ヲトラス武内ノ功ニヨリ
テ成務位ニ昇給フ故成務是ヲ重シテ大連ニナ
シタク思召氏其例ナキ家ナレハ天子ノ裔ト

イ氏官位ノ夏其私ニカタタ始テ大臣ト云
名ヲ下サレタレ也
大伴ハ神代ヨリ連ノ家也古来ハ大伴武臣ノ第
一神代ニモ武ヲ以テ政ヲトル末代ノ如ク日本ノ
朝政文ヲ以テ先トシタレ夏ニハ非ス武ヲ以テ
先トシタレ因風ナリ高皇產靈尊 實ニ曰ク 大連
男忍日命是 實ニ曰ク 大伴氏ノ大祖ニシテ天孫瓊杵
尊西国ヘ下ラセ玉フ御洪ノ頭タリ夫ヨリ相
續ニテ諸ノ連ノ頭タリシニ神武天皇ノ時瓊々

杵尊^原度兄饒速日尊ノ子宇磨志磨治命神
武ニ隨ヒテ連トナリシヨリ其家重ク是ヲ物部
氏ノ大祖トシテ物部大伴ト並ヒテ大伴ハ聊才
トリタルヤウ日本書紀ノ体也景行帝ノ時日本武
尊ヲ東征ニ遣ハサレ朝廷ノカタメハ第一ノ物
部ヲ止メ日本武尊ニハ大伴ヲツケ給フ然ニ
大伴ノ武日武彥兄弟日本武ノ尊ノタメニ討
死ス日本武尊モ帰路ニ薨ス故ニ天子ノ位ニ昂
ス是ヲ以テニ男^{ワカタラヒ}稚足日子位ニ昂テ成務ト号

ニ吾部屋住ノ時ノ重臣ヲトリ立テ始テ大臣
ノ号起リ^{別武内ナリ}大伴ハス夕ヒタルニ成務帝ノ次
日本武ノ御子位ニ昂テ仲哀天皇ト号ス仲哀
父ノ時ノ功臣ノ子ヲ取立テ大伴ノ武持^{タケモチ}ヲ大連
ニ任シ是ニヨリテ大連大臣ト並フヤウニ成タル十
リ然ハ上代大連ト成ヘキ家ハ物部大伴ノ兩
家ニシテ武内ヲ取立テ大連トナソラヘタル家
故是ヲ大臣ト号ス日本書紀ニモ大連大臣
ト列テ大臣大連トハ不置ニ藤原氏權ヲトリ玉

フ勢ヲ敬シテ夕、ニ大臣ヲ重キヤウニ職原鈔ニ
カ、レタリ藤原モ中臣ナレハ連ナレハ藤原ト改姓
シテハ連ニテハ進カタク大臣ニ任シ中臣以後大連
ヲ止メ大臣ヲ以テ一二三ノ臣ノ重号トスル夏ハ
物部大伴ノ家絶メル故ナリ此道理職原鈔ヲ
見ル者ノ初メヨリ能心得テオカサレハ一部ノ躰
意古今任官ノ差別家々ノ程位分別心得違
モ出来スルモノナリ後世朝臣ノ尸弟一トス
ルヤウニ成メレトモ大連スメレタル故也大連ス夕

レタルハ藤原繁昌ニヨリテ旧臣ノ家微々ニ成夕
ルト見ルヘシ壺井氏職原鈔ノ点ニ大臣大連トツケラレ
タルハ此時イマ夕文字ナケレハ音ニテヨム時代ニテナシ
トノ義也ト云然共是等ハ跡ヨリ書タル文字ノウ
ヘヤウナレハ音ニテヨミテモクルニカルマシ道理ハ壺井
氏ノ説相叶フナレハ和ヨミニシテモ通スヘシ
号ニゴリテヨムヘシ清泉ノ点ニスミテヨムヲ習トス舟橋伏
原ハ舍人親王ノ裔ニテ舍人親王ノ父天武ヲ
淨原キヨハラ天皇ト号ス故ニ舍人ノ家清原ノ姓ヲ給ル中古

以後明經ノ博士ニテ代々天子ノ侍讀タル故七八十年
以前迄如此ノ書清家ノ点ヲ用ル人多シ元ヨリ此職
原鈔ヲ増減シタル中原職忠舟橋家ノ門人ナル故
壺井氏ヨリ以前ノ職原鈔ヲ講スル輩多クハ号ノ字
スミニテヨムヌヲ口傳ノ事トセシ也壺井其義ニカ、ハ
ス勿論スミニテヨムヘキトノ道理明ラカナラサレハコ
又ニゴリテヨムナリ但清原ノ習ニ御前ニテモ讀モ
ノナレハ心得テヨムヘキ口傳トテ攝政ヲ敎生ニ紛レ
サルヤウニヨムヘシ官位ヲクハニト聞ユルヤウニヨムヘシ連聲

大和号讀解也

也文化スルム大火ニカフニイテ大ヲニゴル音ニヨ
ムヘシ彼家ノ相傳ニ伏原ニ位宣通卿ノ口傳也是
等ハ貴人ノ前ニテ讀時心得テヨムヘキ故實ニ
テモナリヘシ本朝ノ書ニテ大和ノ書ニテ大和ノ書ニテ
文武天皇四十二代ノ天子天武持統二帝ノ孫父
ハ草壁ノ太子治世十年凡日本ノ故實神代
ヨリ傳ル所以ヲモツテ万事ノ法式天智天皇
ノ時定ラレタルヲ以テ朝廷ノ大禮宣命ナト
ニ近江ノ朝廷定ラレシト書ル、例ニテ何ヌモ

天智ノ近江ノ志賀ノ都ニテ定ラレシヨ法戎
ノ始トスル也夫故六国史ニモ宣命ノ文必此
夏有今モ即位杯ノ大禮ニハ此文ヲ用ラル然
ニ其後文武ニ至テ唐朝ノ作法礼義ヲ移サ
スレ庭上ノカサリ冠服万事多ク唐礼ニ擬ス
ルヨシ續日本紀第一天武ノ卷ニ載タリ此時日
リ万事唐朝ノ風ヲ移シテ今ニ轉變セス

大寶元年 此年即位ヨリハ六年ニ當ル大寶ト
云号ヨリ今日追断絶セス故ニ是ヲ年号ノ始

メトス是ヨリ先ニアルハ其起原トノ云ニテ相
續セサル故改元ノ時ノ文字ノ例ニモ不取也奥州
ヨリ初テ黄金ヲ掘テ献ス是迄吾邦ニ黄
金ヲ掘夏ヲ不知此時金ヲ得テ大寶ト云元
ヲ建ル也即位ヨリ五年大寶元年午ノ三月朔
ニヨリテ律令ヲ撰ト見ルハ今ノ律令ニテハ
正一位藤原大政大臣 先官後位姓名ト次第
ニテ書カ法ナルニ如此位姓官ト書タカキヤ
ウ常ノ官位ノカキヤウヨリニテハ不審有ヘ

キナレ共令ノ義解ノ序ニモ序外大官符ナリ此書様アリテ其
人ヲ各別ニ尊ムカキヤウ也此カキヤウノ論

ハ真ニアリ

俗ニ正一位神ノ位ノ時ハスム人ノ位ノ時ハニコルト
云是ヒガコト也何レトモニゴリテヨムヘシ文武文武
人間ニ淨位ト云モノアリ此職原鈔ノ後附ニモモ
ヘタリ文武天皇ノ時位階ヲオシナラシメテ親王ヲ
四階ニ立テ一品ニ品四品トシ四品ニ至ラサル
ヲ無品ト称ス公卿ヲ六階ニ立テ正一位從一位

正二位從二位正三位從三位トス四位以下ヲ二十
四階ニ立テ正從上下四級宛ニ割四五六七八九トス
是ヨリ位記ト云物ヲ給リ位ノ名ニツイテ知行
ヲ下サレ五位以上ハ位田トテ知行有リ假人々ハ從
五位ニ成レハ八町ノホリツメテ正一位ニ成レハ八十町
江次第田令拾芥抄等ニテ見ルヘシ六位以下ハ
位田ト云テ知行所ハ十ク何俵ト功米ヲ取コト
也其第一ヲ正一位ト号ス淨位ヲウツシタルモノ
成レハトテ正ノ字ヲニゴル也令ノ義解ニモ正

八定也ト註ニ從ハ巡也ト解ス正ハ淨也ノ心ニテ
モニゴルナリ

藤原 日本ニテ四等ノ姓也神別皇別行事居
地ノ四等ナリ神別ハ神代神人子孫ノ一ニテ
ノ姓大神氏ノル也皇別ハ天子ヨリノ別橘平原
ノルイナリ行事ノ姓ハト部齋部中臣ナト云テ
其勤ル職ニヨリテ給ル姓ナリ居地ノ姓ハ藤原菅
原在原ノルイニ人住宅ノ地ヲ姓ニ五ル茂ナリ藤
原ハモト中臣ニシテ行事ノ姓ナリシカ鎌足以後

藤原地

政事ニアツカルニヨリテ一職ヲ司ル姓ニテハス
廣ク居地ノ姓ヲ給リ藤原ト号ス藤原ハ今テ和及
郡山城内ニ大職冠ト字スル地アリ是古ハ藤原
ノ地ナリ藤原ノ大政大臣ト置ハ重キ職ハ藤原ノ
ツカサトルヘキ茂ト任仕セタル書ヤウ也
淡海公 是ハ謚ナリ周ノ大公望ノ故事ニヨリテ近江
ノ国ヲ封シラレタルユハ淡海公ト号ス信濃ヲ封シテ
貞信公ト云ト同シ

不比等 フヒトウト引ヘカラス續日本紀ニ藤原史ト

書テ正字ハ史ノ字也カヤウニニ字ニカクハ史字ノ
假名付ケニテ一方葉カキ也フビト、ニブル説有リタ
シカニシテ九ヘキ證據ナキユヘ今スミテヨム律令ノ撰
述ノ時ハ正三位大納言ニシテ大政大臣ニ任シラレシ
ハ其後養老四年八月三日薨セラレシ正一位大
政大臣ヲ贈タマフナレ共其人ヲ尊ヒテ跡ヨリ如
此贈官ヲ書シ也

奉勅 公式令義解ニ曰尋常ノ小事曰勅ト臨事大
事曰詔ト云是ニヨリテ輕キ事ヲ仰付ラル、ヲ勅

書トイフ重キコトヲ仰付ラル、ヲ詔書ト云其書
式法別ニシテ公式令ニ分テノ不然共勅ハ大小事
ニ通シテ用ヒ詔ハ大事ニノミ用ヒ小事ニ不通天子ノ
言ヲ詔勅ト云テ余ハコレヲ不信事秦ノ始白書ヨリ
始ル古ヘハ父トシテ子ニ命シ君トシテ臣ニ命スル
ハ多勅ノ字ヲモテユコトニ云律令ヲ撰スルハ仰
ハ詔ニシテ臨時ノ大事ナレ共右ニ云如ク勅ハ大小
ニ通スルユヘ用ユ
和訓ミコトノリミコトハ天子至尊ノ義ウヤトイテ

御事トシ文字ニ譯シテ尊ノ字ヲ用ユ其至尊
ヨリ出ル言ハ天下ノ法則ト成故ミコトノリト
云ノリハ法則ノ義也

奉コレヲウケタマハルト訓スルハタマハルハ君ニカ、リ
ウケハ臣ニカ、ル君ノ仰給ル義ヲ臣ウケテ勤ルノ
義ナリ其令ヲ撰セラレシ時ハ前ニ云如ク大納言
正三位ナレ共贈官ヲ以テ書ス

律令 天下ニ施行スルノ法令ナリ日本古來法令ノ
書ナク二十四代推古ノ時憲法十七條ヲ撰テ群

臣及天下ニ行フ是其始ニシテ天智天皇ノ時令ヲ
撰セラレタレト世ニ不傳古來是ヲ天智令共淡海
令トモ号ス淡海ハ天智ノ都地ナレバナリ令ハ人
ヲス、メ朝廷ノ法ニソムカサヲシメントスルノ教誡
ノ書ナリ然共天下万民衆多ナレハ是ヲ用サル
筆モアレト因禁ヲ犯シ人不殺外ハ贖モテヲ
出シ罪ノノガル、ノ恩赦ニアコト時向後罪ヲセウズ
マシキト誓約ヲ立テサセシタメ神事ノ官人後ノ
詞ヲ人ヘテ其罪人ノ穢ヲハラヒ以後ヲツ、シ、

ムル夏ヲ天神地祇ヲオトロカシ奉テ其ユルサル
ル人ノコラシメトス今ノ中臣ノ被ト云是也被ノワザ
ハ神代ヨリ有テ語ハ此時ニ成ル近江ノ朝廷令有
テ律無キ時ハコラシムルノ後ナキユヘ其令廣ク
行レス其比シカト律ヲ定ルニテハナケレ共被ヲ以テ
向後ヲコラシメ罪ノ次第ニヨリテ贖物ヲ出サシムルハ則是
レ律ノ法則ト同シ江次第延喜式ホ贖物ノ夏委ニ
被ニモ上被中被下被ト三段ニ分テ贖物ノ多少
ヲ定コト国史ホニ多ク出近クハ法曹至要抄ニ

カニハライナカツハライニ多クハライ大上中下四種アリ

委ツミヘタリ贖物ハ俗ニ云科料也然ハ天智令
ニナラヒタル律ハ今ノ中臣被トミルヘシ天武ノ
時法則数十条制セラレタルヨシ日本書紀ニミヘ
タリ四十二代文武ノ朝ニ至テハ国政モツハラ唐ニ擬
セラル、故ニ唐令唐律ヲウツシテ其中ハ少々日本ノ
古法ヲ交ヘテ令ノ書律ノ書不比等勅ヲウケタマ
ハリ時々儒者ヲ會シテ唐律令ニタメニテ撰ス
令ノ躰ヲミルニ唐ノ開元貞觀ノ二令ヲ以テ記
ストミヘタリ律七開元律ヲ摸ス唐律義疏唐

律令考

本ニテマ、アリ近年ハ是ヲ摸^{ウツ}テモ諸方ニ行ル、
是ト引合スルニ唐律ニ全ク似テスベテ官職ノ事
モ唐ヲ摸シタルモノ成レハ唐ノ六典唐書ノ百官
志ヲ以テ其根ヲオス時ハ悉スムヘシオシムラクハ
令モ醫疾令関市令等カケテ不傳律ハ一向ツタラ
サリシカ近年関東ノ御タツ子ツヨク漸々三四ヘン
ノミ写本ニテ行ル、様ニ成タリ令ノ義解ハ右大臣
清原復野公奉勅諸ノ儒者トハカリテ撰スル処
二三編カケ十カラ板本ニ有リ令ノ集解是ハ又義

解ヲ始諸家ノ註ヲ集註ニタルモノナリ写本ニシテ
多ク世ニ傳ル令ハ十一卷北ハ八篇律ハ六卷十二篇
是ヲ大宝令ト号ス其後元正天皇養老年中
不比等一タ勅ヲウケタマハリ前ノ律令ヲ増
減ニ律十卷令十二卷ヲ撰シ改ラル令世ニ有ル義
解集解ノ令ハ大宝令ノ本文也ト申傳フ壺井氏モ是
ニシタカヤ近年江戸ニオイトテ御吟味有リ羽倉氏
公儀ノ官庫ノ旧記ニ考ヘ大御所様へ上ル律令
ノ時代ノ考ヘニハ大宝令ニテハ有ヘカラス後ニ撰

セラレタル養老令タルヘキヨミヲ記ス然共世ニ行
ル、板本ヲヨク、考レハ旧説ノ如ク大宝令ニ極
リタリ其子細ハ此書ノ奥ニ至リ段々令ヲ引タ
ル処ニテ弁スヘシ弘仁格ノ序ニ曰令ハ以勸誡為
本律ハ以懲肅ニウ ミユクラ為宗云此序本朝文粹ニノセタ
リ弘仁格ハ傳ラズ此心ヲ以テ律令ノ大意ヲ知
ルヘシ

以官位及職負ハ及ト云字ヲト、ミルヘシ官位令并
ニト云ツ茂ニテハ十三令ノ篇ノ立様第一ニ官位令ヲ

置官ト位ノ相當ヲ次第シテ其次ニ職ト負令ヲ置
職負ハ百官ノ職トニテツトムル役々ヲ分テノセ此ニ
篇ヲ政務ノ始トシテ凡天下ヲ治ヌ又其本朝廷
百官ノ職務ニオコタリナク天子職ヲ分ツニ私ナ
キヤウニスルヲ教ツイニ万民ニ其化ヲ及ニ行フモ
ノナレハ官位令職負令ハ天下ヲ治ルノ大本ノ書
トミルヘシ理ヲ以テ治ルト職ヲ以テ治ルト是經
濟ノ基トミルヘシコ、ヲ以テミレハ官職ノモト
ヲ知ル學問ハ天下ヲ治ルモトヲ知ル學問ソ

ト云心ヲ以テ官位令職負令ヲ以テ始トスル
ト書タルソ

其後多有減省 其後トハ大宝養老ノ令ヲ以テ
天下ニ政務ヲ定ムルハトイヘトモ世ニヨツテ事ヲ
ソグベキアリ事ヲ増ベキアリ其増損ハ民ニノソニテ
時ノヨロシキニ随フカユヘ也官位令ニテ云ハ、定負
二人ノ定ヲモ三人ニマシ又五人ノ定負ヲモ三人ニ減シ
職負令ニテ云ハ、玄蕃寮ハ何々ヲ勤ルハツナレ
共向後ハ此職ヲモ兼テツトメヨト是ヲ増シ式部省

ハ何ヲツトメシカトモ其一職ハ何ノ設所ヘユツルヘ
ニナト仰出サル、ノタクヒ惣テ令ノ篇目官衛
軍防神祇僧尼戸田賦役學選叙繼嗣考
課祿公式廐牧捕亡暇寧喪葬儀制衣服
宮繕官位職負後宮東宮家獄雜令等ノ
篇此外関市令藏庫令醫疾令ハ今カテテ傳
ハラス其諸設所各時代ニヨリテ莫ク減省又後加
ノ義アリ官位令モ其通ニテ令ニアル官ノ減シタル
モアリ令ヨリ後ニ新加ノ官モアリ令ノ官負ニ

アラスシテ後ニ加ヘタルヲ令外ノ官ト号シ假名
双紙ナトニハカズノホカノ官^{ツカサ}ト書來レリサレハ
光源氏須磨ヨリカヘラセ給ヒ又レ共ニ貞定リテ
クツログヘキ官ナケレハ貞外ノ大臣ニ任シ玉フト
光源氏物語ニ書メリ是ハ内大臣心事ニテ内
大臣ハ令外ノ官ユヘ也

但^シ俗言ニテ云時ハ日本ニテタ、ジト云ハツレハソ
ウナレ共又ト云義ニトラサレハ通セス
内大臣 令ニ大政大臣左右ノ大臣有リテ内大臣

ナシ天智天皇ヲ位ニツケシハ中臣ノ鎌足ノ功ナリ
故ニ天智天皇即位ノ後鎌足ヲ御トリタテアリテ
藤原氏トシ内臣ト号シ御側御用人ト云道理ノ
職ニ任シ給ヒシカ後大ノ字ヲ玉リテ内大臣ト号
ス是始ナリ武家ニテ云ハ、内家老ト云モテニテ
表ノ政ニアツカラサルノ号ナルヘシ壺井氏ヲ始諸家
ノ説鎌足ノ内大臣ハ後世ノ内大臣ト各別ニテ大政
大臣ニアタル令ニハ大政大臣ト載テ鎌足ノ時内大
臣ト号スヨツテ鎌足公ノ内大臣ノ時ハ左右ノ大臣

ヨリハ上ニツキタリシカレハ大政大臣内大臣異名同
職ニシテ内大臣ト令ニハナケレ共令ニハ大政大臣ト
官名カ分リテ載タリ後世ノ内大臣ハ令外ノ官ナリ
鎌足ノ内大臣ハ令以前有タレ共令ニテハ大政大
臣ト名目ヨカヘテ載タルユヘ其以前ヨリ有レ共
官位令ニノセストノ云ホトキコトノ外ムツカシキナリ
壺井氏モ此説ヲモチイラレハ職原本父ノ内大
臣ノ条ニ其通り誤テ載ラレタルヲ直ニ受タレ
説ナリ日本書紀ヲミルニ鎌足ノ内大臣モ左右ノ

大臣ノ次ニ記ニテ今ノ内大臣ニカハルコト無シ
鎌足ノ内大臣ハ大政大臣ニ當ルト云ハ撰家ニ諂
諛ノ説ナリ

中納言 此中納言ハ大神高市麻呂ノコトニテ令
以前ノ中納言トイフハ大納言ニ當リテ中ノモノ
マフスツカサト中ノ字ヲウチトヨム官ナリ中ハ禁
中也其時ハ大少ノ納言ナシ令ヲ撰ル時足ヲ大
納言トシソレニ對シテ少納言ト云官ヲコシラヘタ
ルヨリ大少ノ名ヲナラヘソレヨリ後其間へ新タニ中

納言ト云官ヲ入レタレハ後ノ中納言ハ中ノ中^{ナカ}ノ中
モフスツカサトヨミテ大中少ノ中ニテ禁中ノ中
ニアラストミルヘシ高市麻呂ノ中納言ハ後ノ中
納言ト違ヒタリ令ニハ大納言ト改テ載タルユヘ
撰令以前其号アリト云ヘ共官位令ニ載サル
ハ此コ、口ナリ
有^二其^一号 号ノ字眼ヲ付ヘシ其官有リタリトハカ
、ス其官号ハ有タレ共職掌ナカフユヘ官トハ
不書也

神祇官

官舎ノ名ナリ此官舎ニテハ日本國中ニ有ル所ノ
神社ヲ支配シ天子ヨリ祭玉ヲ幣帛ノ夏ヲツ
カサトリ祢宣祝部ノ補任ヲ下知シ天子ノ代拜
ヲツトメスヘテ天神地祇ニアツカル夏ヲスヘ勤ル
役所也故ニ神祇官ト云唐ノ例ニ合セテ云ハ日本ノ
治部省是レ寺社トツカサトル役所ノ有レ日本
ハ神祇ヲ尊ム夏各別^{ヲモ}重ク別ニ此官舎ヲ建伯
以下ノ官人ヲ任シ治部省ニテハ僧尼ノ夏ハカリ

ヲツカサトラシム治部省其職多ク有之内僧尼
ヲツカサトル夏其内ノ一ヶ条ニテ有リ末代武家
ノ公儀ニテハ唐ノ例ノ如ク寺社奉行ト云モノヲ
立唐ノ禮部ノ官ノ如クニ神佛ノ夏ヲワカメス
ツカサトラシム此神祇官ニ別テハ神殿ト云アリ
是ハ天子ノ心府ヲ安スルノ神ニテ神武天皇以後祭
リ玉フ由高皇產靈玉積產靈神產靈生產靈足
玉產靈大宮ノ竈神御食津神事代主神此八神也
今案スルニ漢書ノ郊祀志ニ天子ノツリ玉フヘキ八祀ノ

夏アリ日本ノ八神殿トマキヲハシキモノナリ漢書ノ八
祀ヲウツシタルニヤルレ日本神武ノ時ヨリ傳ル
ギト国史ニモノセ殊ニ天子重クマツラセ玉フ義ナ
レハ今更論ナシ扱此役所天下ノ安全五穀ヲイノリ其
神事ニヨリテモノヲ考ルタメニ末ノ役人ニト部ト云
者アリ是迄モ神祇伯ノ下知ニカスモノナレハ今ニ
モト兆ノ夏迄此官舎ノ知所トノセタリ
口昔大内裏ノ時諸役所惣攝ノ内ニ立並テタトヘ
ハ民部省ト云ハ百姓一件年貢米ノ奉行所ニテ

後世ニテ云ハ、御代官頭ト云ヘキモノナリ式部省
ハ天下ノ式法書禮學問ノ吏ニアツカル役所刑部
省ハ科人ノ吟味ヲ掌リ其罪ヲ定ル役所スヘテ
カヤウニ役所々々有テ左京職ハ東ノ京ノ所奉行
取右京職ハ西ノ京ノ所奉行所此カクニテ推テ見ル
ヘシ其諸役取ノ支配方ノ吏共輕キハ役取功ニテス
ニシ重キハ大政官ヘ伺テスニテ大政官ト云ハ今江戸
ニテ云御評定ノ如ク大臣納言以下寄合テ天下
政務ノ權柄ヲ執ルノ役取尚武家ニテ諸事ヲ

評定取ノ決断ニ決スルカ如シ大臣ト云ハ江戸ニテ
云老中大中納言ハ若年寄參議ハ老中ノ席ニ
ツラナツテ手傳フ人此等ハ欠^{ケツ}時是非共其人ヲ
尋キ任ス大政大臣ハ今云大老ノ如ク其人ガ有レ
ハ置テ人ガラナケレハ欠ノマ、ニテヨクユ正則關ノ官ト云
其諸役取ノ目錄ヲ書時日本ハ神事ヲ第一トスル
ユ正神祇官ヲ始ニ書ト云ヘト七八省ヨリ格式輕ク
元ヨリ大政官ノ支配ニ預ル也神ヲ重ニシテ大政
官ト等ク神祇官ト官ノ字ヲ置シタリ此役所

大内裏惣曲輪ノ辰巳ノ隅ニアリテ今ノ神泉苑ノ
北西諸司代屋敷ノ辺其跡ナリ其時ノ内裏ハ西
ノ京ニテ有シユ且禁裏ト云ハ其中ノ御本凡ノ名ニ
テ天子ノ御在所也諸没所ニハ汚穢不浄ヲ禁スル事
ナシ天子ノ御在所ハ汚穢不浄ヲ禁ス祭鬯カ獨
断由出入有禁故曰禁中云朝廷ヨリ天下ノ政務
ヲトラガル段ニ成テハ諸役取ニ用ナシコ、ヲ以テ禁中
計ニ成タリ神祇官ヲ始ニ書トハ云ヘ凡大政官ヨリ
重キト云云云ニテハナシ此役所ニ諸国ノ社ヲ京ヨリ

遥拜ノタメ戸前ヲ並ヘコレヘ幣帛ヲ奉テマツル
夏アリ式内ノ神計ナリ延喜式神名帳ニナリタ
神ヲ式内ト云其後ニマツリタハ式外ト云ナリ
當唐太常寺

惣シテ唐官ヲ書入タルハ親房卿ノ所為ニハアラ
ズ後人加ヘタルナリ唐官抄百官唐名抄云ハ古
書ニテアレ凡杜選ノ書ナリ其書ヲ以テ推テ引
合テ書タルナリ故ニアタラサル夏多ニ別ニテ神祇
官ハ唐ニ比スヘキ官舎ナシ唐ニテハ寺モ社モ礼部ノ

支配ナリ前ニ云如ク日本ハ各別ニ神事ヲ重クスル
ユ正諸官ノ上ニ置ル、上ハ唐名ニ合ヘキ官ハナキ筈ナリ
唐ノ大常寺ハ天神地祇ヲツリ先祖ヲ祀ル官
舎ナレト其イキカタ相違スアタラスト云ヘシ

○唐ノ字壺井流義ニテモ其外ニテモカラトヨムハ
心得カタシ日本ノ官ハ多ハ唐朝ノ官ヲ以テ書タリ
故ニ李唐ノ官ヲ以テ引合セバ大カタニ合テアリ是
ヲスヘテカラトヨメハ時代ヲ指ズ中華ノ惣名トナ
ルユ正周ニハ何トナリテ漢ニハ何隋ニハ何ト世々ノ

官名ヲ引子バナラサルヤウニ無益ノ憂ニ注モ弘ク
却テ官職ノ事實ニハ疎クナル事ナリ大ニ参考ノ
書此失アリ往テ可見カラ名トアルモ又又ナリ
カ百名ト云名アルヘキヤウナシ唐ニハ何々ト名付ル
ト唐ノ世一代ヘツ、メテヨムヘシタ、ト唐官ニモレタ
ル莫アレハ其取ニテハ時代ヲワケテモ可弁大概李
唐ノ官ニテサバケハ国ノ大小方域ノ遠ニカイニテ政ニ所
ノ宜アリ訣ワケモ遠ニカイニユヘ一統ナラサルモ又アレト惣テ
論スル時ハ合フテ行クギ也又云祠部是ハ別ニテ

合ス兵部ノ式部ノト云部ト此祠部ノ部ト同シ
夏ニテ祀ノ没人ニハアレレ役所ノ名ニハ不合

○大常令是モ右ニ云如ク方域ノ遠ニテ一向合
又夏ナガラ無理ニ合セテ見レハ此没取ノ長官
神祇伯ニハ合ヘシ令ト云ハ長官ノ心ニテ是モ没
取ノ名ニハ不合ト見ルヘシ

以當官置諸官之上

當官トハ神祇官ヲ指ゾ諸官トハ神祇官ヲ除
テ都テノ官舎也其中ニモ別テ大政官ヨリ上ニ

置ル、夏ハト云云也此書ツラヌル時ニテ座列格夫
昔ノ上ナルト云云ニテハ曾ニナシ

○是神國 是ト云字ハ其上ニ置ルハ子細ハト云キ
神國トハ初各ノ國ト云ニテ是モ上代ハ神祇官ヲ
上ニ書タルニハ不可有天智以後ノ夏ナルヘシ其考
ハ大政官ノ条ニテ可弁

○天神地祇

周礼ニ曰文意ヲ取

天子至尊日月星辰ヲ

祀ヲ天神ト云諸臣ノ灵山ノ灵川ノ灵雨所師風伯
ヲ始メ凡テ地ニテイスル灵ヲ地祇ト称ス日本モ其

儀ニ同シ令ノ義解ニ天神トハ何々地祇トハ何々
ト古来ノ大社ヲ分ル所ヲ見ルニ周礼ノ意ト能合
也天神地祇ヲ重ニスル莫ハ我國ニ限サレモ鎌足公
朝政ヲ執王トテ以後ハモト是神事ノ職分ヨリ出
タル人ナレハ朝廷ノ義悉ク神事ヲ先トシ人事ヲ
後ニスル様ニ成タリ各別ニ天神地祇ヲ敬畏シテ
是ヲ列書スル時上ニ置ト云モナリ。

昔人皇最初

伊弉諾尊ヨリ鸕鷀草葺不合尊迄ハ神代トシ

其御子神武天皇ヨリ人代トス人代ノ始ノ猶神
代ノ人可首按スルニ神代ニハ謀計ヲ以テ莫クナ
ス莫ナシ神武東征ノ時神策ヲ廻ラシ我カ軍勢
ノ勇氣ヲ失フヘキヲ取直サセ玉フ莫神武紀ニ見
ヘタリ此謀計有ルヨリ以後ハ人テ日ノ人情ト等
ク故ニ人代トス神武只有ノ一ニテ謀ハ無世ト
云也サレハトテ神代ハ直ナリト云ニハアラス也ノハ
タラカサル世ト云ギ神武ノ謀策アルハ其智神代
ニ勝レル故也又案スルニ伊弉諾尊ヨリ西国ニ都

シ其有^ウ僅ニシテ万物備ラス神武東征ヨリ品物
等モ備リ大和ニ都シ給ヒ日本紀撰述迄仁徳孝
徳杯ノ僅ニ撰津ニ都シ玉フ夏有ト云ヘ凡續テ代
々大和ノ都不替大和ノ都以前ヲ神武ヨリ祀玉
ヒテ其マツルヨト云茂ニテ是ヲ神代ト号ス其神
代ト分テ云ニ付テ假ニ人代凡人玉凡云ハ神代ニ
對シタル詞ナルヘシ凡日本紀ニモ神代上下トハ
百十カウ神武ヨリ以後ヲ人代凡人玉凡書テハ
ナシ是ヲ以テ見レハ神代トハマツルヨノギ大和ノ

都替リテ今ノ平安城ヨリハ大和ノ都人代々ノ
夏ハ又是神代ナルヘシ日本書紀ニ人玉人代ト記サ
ス凡ルニ中古已後ノ書マツルヨト其後トシ分タニ
爲ニ假ニ設タル名目ナルヘケレ凡日本ノ天子ハ其
最初ヨリ統脉ヲ不変譬ハ史記ニテ云ハ、三皇
本紀天皇氏ノマ、ト云茂ニ相叶^レ夫故今ニ天皇
ト書ス神武ヨリ以後ヲ人皇ト書スレハ命ヲ天ニ
受ルノ統主替リテ人皇氏トナリタルニ似タリ
是ハ中古ノ人天皇氏人皇氏ト云夏ヲ日本ノ夏

ヲ惡クウツシ来テ神武以後ヲ人皇ト書タルモ
ノナルヘシ親房卿何ゾ神武天皇ト云ヨリ書玉ハ
ガルヤ昔人皇最初ノ五字無テモ可濟也

○神武天皇 神武不殺ト云字ヲ取テ謚トスル

カ傳ハ日本書紀第三ニ委ケレハ爰ニ畧ス此天子

御兄彦五瀬命ト共ニ日向國ヨリ東征ニテ都ヲ

今ノ大和ノ畝傍山ノ麓ニ都ニ是ヲ祝ッシテ標原

ト云カシハラハ其色ヲ変セサルノ佳名也今此所ヲ

都村ト号ス一名西音寺村ト云ニヤコハ人ノ都會ス

ルキ四方ノ人ノ集ル取ト云心豊後國ノ風土記ヲ考

ルニ宮所ト書テニヤコトヨマセタリルレハニヤコト云

ハニヤドコロノ中畧ナルヘシヤトハ山ノアト、諸家ノ

註ナレバ神武記ニ青山四州ト大和ノ古ヲ書

タレハ山マトフノ茂ナルヘシ壺井氏雄畧天皇ノ御

哥ニアキツシマノヤトト、云御製ヨリ起テ蜻蛉ノ

形ニ其國形似タルユ且名ツクセイレー和名アキツ

ムシ一ニヤトト故ニ云トノ説ハ今テ是ヲトラス神武紀

本文徴トスルニ足レリ

○天照大神、是七謚也。此段三種ノ神器ノ傳ニテ
一通リニテハスミガタニ是ヲ穿鑿ニ旦リテ説テハ
其文ハクメレ其質ヲ知ル莫不能近ク譬ヲ取テ
詞ヲヒキクシテ説時ハ上古日本ノ風ニ女ノ貴人
死スレハ其ハ夫ヲ祭ル神主ニ立ル者朝夕見タル鏡ヲ
用男ノ貴人死タル時ハ其神主ニ立ル者其人帯
シタル釵ヲ用令ノ本文ニ因レハ上古釵ハ賤官以
下庶人ノ私ニ持莫ハナラサル物也又鏡ハ神ヲ以テ
祀ルノ目當ト成ル莫我國ノミニ非ス畧國ニテ


モ其通ニテ博古ノ圖ニモ鏡ハ百神ノヨル所ト載
タリ天照大神御子無ク素戔嗚尊ノ御子ヲ取
テ日嗣トシ玉ヲ正哉吾勝勝ノ速日天忍穗耳
尊是也然レハ日本天子ノ統ハ位ハ天照大神ヨリ
傳リ血脉ハ素戔嗚尊ヨリ傳ル莫ヲ以テ天照
大神ノ神主トシテ鑄タル所ノ鏡ト素戔嗚尊
帯シ玉ビシ釵ト合セ是ヲ天子ノ祖神ノ神像ト
崇奉リ禁中ニ安置シ天子同殿ニ座テ朝夕ニ
御拜モ有シ莫ト見ヘタリ此鏡ニ此異有ニハ

非ス此釵ニ此不測ノ徳有ニ非ス天照大神素盞
鳴尊ノ神主ト崇メタル物ナルユ且天下第一尊ヲシカラノ自
天子ノ爲ニハ異モ可有玉ハ別ノ物ニテ神主ノ
列ニハアラス只是天照大神ノ掛サセ玉ヲ器物ノ
殘レルモノ只是此一カタマノミナルユへ右ニ種ノ神
主ニ副テウヤ一イ傳ラル、故ナルヘシ三種ノ神
器ト云夏ハ日本紀ニ不見夫ヨリ後ノ説也二種ハ
神主也一種ハ宝物也三種ノ神器ト云ニヨリテ神
器或ハ宝器ト心得ソコナイ三種ハ宝物ト思

フハ誤ノ至極可成神器ト云ハ天子ノ位皇極ノ夏ニテ
道具ノ夏ニテハナシ是ヲ以テ神器ヲ受嗣玉ヲ
ニルシト心得ベシ況ヤ三種ニ智仁勇ヲ兼タル等ノ
俗説ニ於テオヤ巫祝ノ從徒トボカミ且ミタメ是ヲ
三種ノ大袂ト名付トホハトホコカミハカ、ミ且ミタ
メハタマナリ杯ト云亀ヲヤクウラナイノ詞ナルヲ
袂ノ如クニ取ナシテ人ヲシイクラマスノ説ナリ
今ニ天子即位ノ時ノ文ニ齋部上ニ神璽之鏡釵
義解ニ以鏡釵為天子護身之璽ト云如此鏡

釵ト二種而已有テ其二種ヲ以テ璽トスルト書シ
ユヘ世上ノ有職者宝物ハ二種也ト云延喜式大畧
祭ノ祝ニモ璽乃鏡釵ト記タリ令ノ文意ト同
シルレモ今日傳ル所ハ二種也是神璽ト云夏ヲ
委ク吟味セサルユ且其說表ズミ而已シテ實淺
スニカクニ故ニ神璽ノ義ヲアラマシニ弁ス
△神璽ト云夏神代卷ニ不見曲玉ト云事ハ見ヘ
タリ神璽ト曲玉トハ別ナリ日本書紀ニ末ニ成テ
ハ璽ト計ハアリ神璽トハナシ令ニ天子ノ印章

ヲ神璽ト書シ内印外印ノ寸法ヲ辨タリ異國
ニテモ天子ノ印ヲ神璽ト号ス又ハ玉璽モ云神
璽ヲ始テ製セシハ秦始皇ニシテ其文ヲ李斯
書ク委クハ史記ニ見ヘタリ此玉璽ヲ傳テ漢ニ
モ用終ニ天子ト成ノ璽トスル夏秦ノ故事ヲ
不改事文類聚玉石ノ部ニ古書杯ヲ枚多引
テ玉璽ノ夏ヲ委ス其天子ノ玉璽ヲ封スル
ニ管ノ上ヲ書キ緇^{キヌ}ニテ包紫ノ紐ヲ以テ結フ勿
論其内ヲ紫泥^シヲ以テ封スト有リ日本ノ天子

ノ神璽是ヲ捺ニサレルニハ赤土以下ヲ以テ捺カタク有
テ布ニテ包是仰内トス調ヤウ延喜式ニ委シ
載タリ常ハ主鈴ト云官是ヲ奉行ニ押ス時ハ少納
言取テ之押也今ニ七位記ヲ玉ル時少納言是ヲ押ス
其文曰 ノ四字也此神璽ノ璽ノ字説文ニ爾
ニ從レエ土ニシメカフト云俗字誤テ玉ニ從ト云ヨリ
曲玉ト相混シ神代ヨリ傳ルマカメマノ管ヲ神璽
ノ管ト名付是ヲカサルニ唐ノ通書キ絹ニテ包
紐ヲ掛テ宝トス中古ノ誤ニ非ス余程大昔ノ誤アヤリ

ト見ヘタリ天子ト云ハ庄此管ノ内御覽ハ無夏
也如何成物にシロシメサス神璽ノ管ト称シ来リ中
古以後朝廷ノ記録ニモ公家ノ記録ニモ三種
ノ神器ノ一種ヲ神璽ト号シニルシ璽ノ管ト呼来ル
ヤウニ成リタリ一カメマノ管ト可云物ナリ神璽
ハ別ニ有夏公式令ヲ考テ可見唐ニ玉璽ヲ以テ
統統ヲ傳ルニ準テ中ヲモ不見シテソレニ準テ神
璽ノ管ト呼来ルト見ヘタリ尔ラハ令ニ何トテ
又神璽又鏡劔ト書テ註ニ鏡劔ヲ以テ璽ト

スルト書メルズナレハ春宮ト云ヘ凡其印ヲ以テ璽
ト称スル莫不能鏡釵ヲ受玉フ其日ヨリ天子
ト云ノ璽ニシテ是ヲ請取給テヨリハ御印章ヲ
神璽ト称スヘキノ證據ハ鏡釵ト云ギニテノ神
璽之トシカト之ノ字ヲ中ニ入テ注ニ鏡釵ヲ
以天子護身ノ璽トシ玉フ是ヲ御先祖ノ守ト
思テ夫レヨリ璽ト称スルノギ之夫玉石ヲ以テ印
ニ彫用又文字タモナキ神代イカニシテ有ハキ
ヤ神璽ト云御印判ハ唐朝ノ風ヲ摸^{ウツ}ニテヨ

リ後ノ事ナルヘシ日本書紀ニ遙後ニ記サレタル
モノナレハ末ノ卷ニハ璽ノ字見ヘタレト上古ノ
卷ニハ不見

○曲玉ト云ハ色々ノ玉ヲ貫キ結タルモノニテ
上々ノ身ノ飾リトシ玉フ物也一ノ葉集ニ玉足
玉^ウトヨミタリ処々ニトヒテカサリタルモノニシテツナ
キ合セタルモノニサレハ日本書紀ニ丹波國桑田郡ノ
犬ノ口ヨリ一ガ玉ヲ吐ト云又アリ一ガ玉一連ヲ吐ニハ
非ズマカ玉ニ可貫上品ノ玉ヲ吐也後ニ天照大神

ノ朝夕御身ニ添ラレタルモノヲ宝トセシニ只曲玉
ノ一連残りタルヲ管ニ納メ傳ヘ漢字渡リテ後
ニ次第ニ日本古風ハウスクナリ是ニ名付ルニ神璽ノ
管ト云名ヲ以テシ是ニ因^{ヨリ}テ冷泉天皇^{六十一代}ヒソカニ
疑思召テ神璽管ヲ明サセ玉フニ忽^ニ内ヨリ雲
生シテ夫ヨリ御眼疾ニナラセ玉フ由諸ノ記録ニ
ノセタリ神璽ト云名ニテ明ケ玉フニ曲玉ナリシユ上
上氣ニ御眼モ煩セ玉フ可成何ソ管ノ内ヨリ雲
ノ出ル夏有ニヤ壺井氏説ニハ上古ノ物ユ上管計

ニテ内ニ物ナクホコリナト内ヨリ立テ御目ニ入タル
可成トノ話ナレト申ノ人物ノチカイタルニ驚セ玉
フナルヘシ先年龜田三島大夫^{紀州}取次ニテ大御所様
ハ^{秀樹}カ著ス所ノ神璽ノ傳一卷ヲ献上セシ
其説モアラマシ此通ニテ和漢ノ書ヲ多ク
引タル迄ナリ

八咫鏡及草薙劔

及ト云字ニ神璽ヲモタセタルモノ也ト云説世ニ有之
夫ハ右ニ弁スル次第知ラサル者ノ説也天照大神

ノ神ヲトスルモノハ鏡劔ノ二種也玉ハ宝ナリ何ソ
御ヲト云所ニ玉ヲソエニヤ

ハ花形鏡

ハ〇ハ尺鏡一説尺ハ八寸ナレハ八八六尺四寸鏡云
一説ハツ花形ノ鏡ト云ハ花形ハ漢ニテ菱花ト云ガ
鏡ノ異名ニテ三才圖會杯ニ海馬鞍觀ノ鏡
有リ其ハ形ナハ花形也日本ニテモ天子御儀大
ノ時ノ調度ニ用玉フ是也今伊勢ノ内宮神鏡ヲ
考ルニ甚少キ物ニシテ御船代ニ安置スルレハ六
尺四寸ノ説用カタシ神武紀ニハ尺為有ッ夫ト同

シ心ニテヤタハ和訓アタリノ下畧アハヤトアト横音
通ス殊ニ尺ノ字ハ君ニ尺尺スト云時ハ御側近ク仕
ルノギ天子ノ御側アタリヲハナレ玉ハサハ鏡ト云ギ
○草薙ハ本名村雲劔鏡ハ天照大神ノ御靈劔ハ
素盞鳴尊ノ御靈皇祖血祖ノ御ヲ大ヲ合セ祭
リテ天照大神ト云第九代因化天皇迄ハ禁中ニ
安置シテ天子同床而坐給シ夏注古ノ神勅ノ
如シ此神勅ハ神代卷一書ニ有リ此鏡ヲ見ル
フ我ヲ如見セヨト御子孫ハ傳ヘ玉フノ天照大神

ノ勅ナリ

○大畷ヲ古語拾遺ニ正畷トアリヲモダナ面立タル御畷ト云
ギ和訓ミアラカ屋根ヲ葺ツキタルテイッ異隣ノ如ク
ナレハ也イロコイラカ通ス但古語拾遺ニ因バ神
代ノ宮造リ紀伊国御木ミキアラカト云所ヨリ杖
木ヲハコハビセタルユヘニミキノキトアラカシ添テ
ミアラカトノキ穿過ウカチスキタル説ナレハ今不取之

由レ此皇居神宮無差別

是ヲ天子ノ宮中此カ神ヲ祭ル宮中トテ差別

無リ也相分レテ後天子ニ限リテキウチウト讀
セ東宮皇宮杯ノハグウチウトヨマセ伊勢ノヲモ
神宮グウト濁リテ朝廷ト相分ツ習ニ成タリ此
所ハ未分時ナレハ神宮ト清スミテヨムヘシ神宮
ト濁リテ讀ハ神社ヲ立テ後ノチノ夏也如此ヲ
日本ノ書ノ古キ讀習セトハ云ナリ

○宮中立庫藏此云齋藏イミツクラ

宮中スミテヨム庫藏トハ官庫祭藏ノ儀是
カ天子ノ御用ノ藏是カ神ヲ祭ル神物ノ藏

トテ差別スル夏ナク天子ノ御用ノ器ヲモ神
事ニ用神事ノ器ヲモ天子ノ御用ニ用ニ是
未夕礼ノ立サル時ノ古風ニシテ官物神物分
テナシ故ニ此藏へ出入ニテ御用ノ器ニ携ル輩
ヲ齋部ト称シ御藏ヲ齋部藏ト云イニハ
ト云ハモノイニスル輩ト云心齋部氏トテ古来
一血脉ノ人ニハアラス故ニ古語拾遺ニ國々ノ
齋部ヲ奉タリ其古又ヲ掌^{ツカサド}ル頭ノ家ハ神代
ヨリ傳ル天ノ太玉命ノ裔也

○無分云此ノ無ノ字ノ上ニ古本亦ノ字有此ハ
上ニ差別ナシト云ニ當リテ官物神物共ニ亦トウ
ケタル詞也今ノ俗本亦ノ字ナキハイカ、校合ス
ル時可神者イカ、
○云ハ如此云傳へタルトノギ説文ノ云モ云ノ字
ニカ、リテ不及論
○此時此ワイタメナキノ時也尔レモ種子^{タネコ}命ハ
神武帝之時ノ人ニテ是ハ九代同化帝^{ニギハヤヒ}追ノ夏
ナレハ天^{アマ}毘^ヒ屋^ヤ根^ネ命ノ孫ト計畫テ種子命ト云

夏ハツキヲ省ハツキタレハ文能ク聞ユル也種子命ト有レハ
一代ニ限ルヤウニテ文義スマス

○天種子命ハ兎屋根命ノ孫父ハ天ノ押雲命
神代ヨリ祭祀ノ夏ニ預リ神事ニ奉スル人ナリ
春日ニテ若宮ト称スル是ナリ神武紀ヲ案スルニ
来ノ種子ノ命ハ侍臣ト有リ御側ヘモ仕ヘテ神
事ヲ掌リタルナルヘシ

○專ハ一ナリト心得ヘシ俗ニ云祭祀夏ニ預ル
ニ長官ノ職タリ

是乃執朝政之儀也

古人誤テ思ラク神代ハ質素ニシテ人事鮮ニ天
下争ヒタク只神ヲ祭ルノミ朝廷ノ重キ御用ニテ
神事ヲナスカ則朝政トナルヨリ外ニ御用ハ無ユ
正祭ノ字ヲモツリト訓ニ政ノ字ヲモツリコト
、訓ス同訓同義ト云親房卿モ其心ニテ書玉
ヒ壺井氏モ其心ニテ二十卷ノ鈔物ニモ註セラレ
タリ禁秘鈔ニハ朝廷ノ政神事ヲ先ニシ他事ヲ
後ニ大ト載ラレタリ古語拾遺ニモ天下ノ政務

神事ニテ治ルヤウニ書タリ案スルニ是藤原氏天
下ノ権ヲ執テ以後ノ説ニテ日本ノ古實ニアラス
中古以後ノ人々マツク古實ヲ知人百ヘケレト撰
家へ詔テ我心ノタケヲ書モ述サル也神代ト云ヘト逆
者有ユヘニ弓矢ヲ玉テ天^{稚彦}雉彦ヲ下シ玉ヒ又御兄
弟ト云ヘト御心不正法ニ尙キ玉ヘハトテ素盞鳴
尊ヲ贖ツクサセテ出雲ニ下ス是レ人事ノセツナ
ル所ニシテ祭事ニ非ル莫明ケシ夫ヨリ敢伊弉
諾尊伊弉册尊ノ國々ヲ廻リテ民ヲ化玉フモ

只是人事ナラクノミ其間ニ天照大神ト云ヘト新
嘗キコシメスノギ伊弉諾尊ノ御存生ノ内ニ御
冥ヲイハク玉フノギ天照大神崩シ玉ヒニ天ノ
岩戸ニ隠レ玉フ故鏡ヲ鑄テ祀ルノギ是祭事也
神事祭事相分莫可見政モ祭モウヤクシク敬
テナス事ナレハ奉ヲ奉ルトヨム訓ト同ク臣下君
命ヲ奉シテ執行ノギヲマツリトマツリコトト云
児屋根命次太玉命相並テ祭事ノ人也尔ルニ其
児屋根命ノ子孫中臣鎌足天智天皇ヲ位ニ昂

奉ル功有^レ爰^レ以^テ神事ニ預ル中臣ノ姓ヲ改テ
藤原ヲ玉ハリ家ヲ與^ニテ朝政ニ預リ初^ニヨリ
終^ニ朝權ヲ取り子孫執政ノ臣ト成ルレ^レ文武
天皇^{四十一}_{二代}ノ勅ニ天兒屋根命ノ子孫ト云ヘ^レ藤原
ヲ以^テ名乗分ハ政事ニ預リ中臣ヲ名乗分ハ
祭事ニ預レ^トノギ續日本紀ニ見ヘ^レ去^レハ太玉命
ノ子孫ハ永ク神事ニ而已預リ政事ニ不預^ニテ齊
部氏ト称ス鎌足ハ中臣ヲノカレ^テ藤原ト成^テ
政事ニ預ル是此大功有^レカ故也齊部ハ齊部ノ終

ニ^ニテ是此ノ功ナ^シ故ニ本ノ如ク神事而已^ニ預ル
ト云^了簡無ク齊部廣成神代ニテハ肩ヲ並
ニ家ナルニ兒屋根ノ子孫ハ大臣ニ任^ニテ我家漸五
代ニ成者夕ニ希也ト訴狀ヲ林中へ奉^タレドモ
齊部功ナキノ故ニ改姓ノ事モナク其訴狀ハ空
ク成タリ其訴狀ヲ後人一冊ノ卷トシ題^ニテ古
語拾遺ト云是也我家ヲ重ク云^ニタメニ祭政同
意ノ様ニ書成タ^ル古語拾遺ヲ末代ノ學者誤^テ
證トス書ハ古書也故ニ古實ヲ取古又モ有^リ説ハ

我家ヨ立ニトスル一功有訴狀也彼書ヨ評スル輩
此所へ眼ヨ不付故義理悉委相遠ス日本書紀古
事紀兕屋根命ヨリ鎌足迄北一世ノ間政預リ執
人一人モ無ク又明ケシ物部大伴後ニハ獲我杯而
已朝政ヲ執リ兕屋根命ノ子孫ハ鎌足以後朝政
ヲ預ル神事ノ家ヨリ改姓ニシテ朝政ヲ執ルヨリ
神事ヲ先トシ人事ヲ後ニス追ト遠ト民徳歸厚
ノ化ハ可有今日ノ夏ヲ決スルノ失又無ニシモ非ス
今日武家ノ權ヲ見ルニ人事ヲ第一トス天下コレカ

爲ニ治ルニアラスヤ本文ニ祭ト朝政ト一ツノ夏ニ書タ
ルハ日本書紀古事紀ノ本文ニ合難ニ祭祀ノ夏ハ
朝政ヲ執ル方機ノ内ノ一ヶ条ナルヘシ壺井氏杯本文
ノ終ニ講セラレシハ撰家ヲ恐レタルニハアラス国史
ヲ見ル夏ノ熟セサルユヘナリ

崇神天皇

右ニ云如ク第九代元化天皇ノ御時迄ハ鏡劔ト御
同敷成シカ世下リ時歴タルニ從ヒ天子モ此神鏡ト
御同敷ナル夏ヲ恐レ玉フ是モ崇神天皇俄ニ恐レ玉

フニアララス十代ノ間次第クニ其神ノ世ト遠サカル
ニ依テ不親^{ルニクニカラ}爰アリ不親ハ難^{キナレ}則ニ至ル爰ヲ以テ神
代ノ鏡作ノ子孫ヲ撰テ此鏡ヲ鑄改テト云爰也
崇神ハ謚也公武令ノ義解ニ謚ノ法有リ其文ノ
如ク神代ノ鏡釵ヲ崇玉ヲ夏弟九代迄ヨリハ勝レ
タルノ爰ニテ後世崇神ト謚スルナルヘシ案ニ国史実録
等ニ鏡作ノ家筋ハ神代ノ跡ヲ追テ石凝姥ノ子
孫ヨシニテ鑄サスル由アリ神代ノ釵ハ神代ノ卷ニモ作
人ヲ不載只是素盞鳴尊ノ御釵ニル共崇神時改ハ

其作者ナクテハ不可有然ルニ不載作者^ヲ是不審^ハナリ
一説神代ノ冥器ハ有名無實ニシテ此時鏡モ釵モ持テ
各ツハ伊勢へ祀リテ神代ヨリ傳ル所トシ各ツハ禁中ニ止ラレ
テ左右ノ御守トシ玉ヲ神代ニ鏡ヲ鑄ルヤ天ノ羽翰ト云テツイコ
迄有ル様ニ載タルハ不審ニ神代何ソ鏡釵ヲ作ル程ノ姿^キ夏有
ニヤ崇神天皇ノ時二種ツ、新造ニテハ上古ヨリノ物ナリト
伊勢ニ祀リ御子孫万世ヲシテ神威ヲ立御信心ノ勝ルヤウニシ
タル物ナルヘシルハ神代以下鏡釵ノ夏アルハ崇神ノ時ノ新造ノ
鏡ニ縁起ヲ付タルモノナラント云^云 已上齋部家秘傳有

尔レ其如クノ説ニテハ伊勢ノ神跡モ立セ玉ハ神代鏡釵ノ作
者有ルニシキト云程ノ疑ヲ立ハ漸十代ノ崇神ノ時二種ツ拵テト
云程ノ方便ハ有ニシキニ何ヲ云テモ上古ノ世ノ夏ナレハ何カ實説
ナラト決シカクニ善惡共因史ノ文ヲ徵トシテ其ハ不可穿

○漸畏神威 此漸ノ字日本ニテハカクハ次第ニト云俗
語ニ通ハ神威ハ神冥威ヲ云神徳ト云トハ別ナリ神徳ト云ハ其
徳ノ化ヲ云神威ト云ハ嚴重ニ威光有ルノ義ニ世遠ク天照
太神トノ御親モ友ニ於テ十世ナレハ神徳ハ泰ク思召レ神威
ニハ次第々ニ畏怖シ玉フノ道理多ク以テ神代冥器ヲ別所ニ遷

玉ハ爲ニ新器ヲ造ラセ玉フソ然ハ漸ク神威ニ恐レテトニノ
假名ニ可讀ヲ秀樹カ本ヲノ假名ニ直シタルハ壺井先生
ノ直シノ終ニ先生論語ヲ引テ君子ニ三ノ有畏ノ文ト同ク
オノカニニテ及レハウヤ一ノキト云夫ニテハ文意不濟漸ト
云字ニ可付眼ヲ壺井氏ノ説ノ如クナラハ神武時代ニ向
是ヲ敬畏シ玉ハス次第々ニ敬イ玉フヤウニ成テ第十代迄ニ
漸々ト是ヲ敬イ玉フト云義ニナルニ兎角世遠ク成ニ隨テ
御同敬座ニハイカト畏怖ノ御心有故ナルヘシ敬イ玉フ心ナ
ラハ遠方ニ祀レルヲ七宮中ニ請ヒ奉リ玉フヘキ義ニ遠ニ祭

リ玉フハ畏怖ニ非シテ何ソヤ是ヲ敬ト云ハ敬ミテ遠サクルノ
儒門ノ言ニ現ニ可^カ延^ル呼々夫吾上古質素ノ風ニ非ス敬ミテ遠
サクルカ儒門ノ鬼神ノ取扱ニシテ信ミテ親^ニカ我國ノ神^ヲ天ノ
祭ヤウ之其説天測同理ナラス漸ト云字ト神徳神恩
ヲ不^レ書^シミテ 神威ト書シタルニ心ヲ可用勿論是日本書
紀ノ文ヲ以テ書タルモノナリ

○鑄改鏡劔 鏡ハ鑄物劔ハ打物不^レ論シテ明之ルニ
侍中群要ニ鑄刀使ト云職有御用ノ刀劔ヲ作ル所へ吟
味奉行ニ付御使ナリ鑄ノ字必^シモイルニ不^レ限^ル亦夏ニ借用

古今又劔録ト云ハ説部ノ内ニ其書ニモ鑄ハ劔ヲ有
リ鑄ノ字ニカハルヘカラス

○奉安置神代器於別所

是レ崇神帝ノ皇女豊鋤入姫ニ^預奉^敬リ始^ルハ
大和國ニ安置シ奉リ後伊勢ニ移ス是ヨリ是ハ天子ノ御
殿是ハ神ノ社ト相分ツ始之古来神宮ト云モノハナク口宮
中ニ其可^レ祭ヲ祀リ玉ヒテ後世ノ如ク天下万社ハヒコシ
ルニアラス宮中ニテ祀リ皇居神居分レサル時ヲ以テ今ノ如ク
別ニ神道ト云モノナキ道理ヲ可知王道ハ天下ヲ治ルノ政事

也神道ハ其内一ヶ条ノ祭祀ノ礼ト輕ク可見

皇仁天皇代十一是時ヨリ貴人ヲ葬ルニ殉葬スル者ヲ止ム

葬ノ者ハ我國計ニ非ス史記抄ニモ見ヘテ異國ニモ昔ハ

其者有シ也日本ハ土師管原ノ祖野見ノ宿稱奏メ止者

日本書紀皇仁ノ巻ニ亦云シケレハ後ニ畧ス

△此所へ日本書紀ヲ引テ講スルニ土師ノ祖野見宿稱

生人及生雞犬ヲ殉葬スル者ヲ止ム上古ノ例ナレハ其例

計ハ殘サントテ土師人及生物ノ形ヲ造リ是ヲ埋ム其職子

孫ニ傳リ土師ト氏云歟ヲ給ル葬事ニ預ル職ナレハ賤者ニテ

耻辱有ク義ヲ以テ土師ト書テハチトヨムルレモ是天下

ニ仁ヲ行フニヨリ起職ヨレルナレハ子孫管原大江ト改姓

シテ登用スト云同上壺井氏今案スルニ土師ノ假名耻

辱ノカチハ不合耻辱ハハチノ假名之其上日本書紀ニモ

垣輪ハニハヲ作ルト有テハニハトハ土ニテ拵タル人形ヲ陵ミサキノグ

ルリハニハ葬ノ者故ニ垣土ノ心ニテ土師ト云ハ垣師ノ中畧ナリ

土ニテヌリタル家ヲハニフト云蒙ニカハル土ヲハニガルト云

トカクハニハ土ニテ其柔ナルヲ稱ス夫ニテ人形ヲ造ル者ハ

ニシヲハチノ假名ニ心得ラレタルハ覺束ナシ皇仁ハ跡ヨリノ

謚也狗葬ヲ止テ仁ヲ岳ルノ義可成

○天照太神 是ヲ天照太神ハ鏡劔ヲ指テ云

○伊勢國 伊勢^津乃國ナレハ名付クト風土記ノ説ナ

レ信西國分ヲ考ルニ浪アラキ國ニテ既ニ風ナキ莫不能

浪ノイセル國トイテナリソコニ佳人ナルユエ伊勢津^津ト

云ナルヘシ上代ハ伊勢伊賀志摩ハ一國ナリ

○度會郡 今ノ内宮ヲ云今ハ外宮ノ地ヲ山田ノ原

度會ノ宮ト号シ内宮ノ地ヲ宇治ノ宮ト称ス元來内

外宮ト云莫ハ無莫ナレト宇治ヲ古書ニ宇遲ト書タリ

信西國分

是ヲ内ノ字ノ義ニ讀オノツカウ夫ニ對シテ外宮ト称シ

名アル人ノ歌ニモ内外ノ神ナト誤ヨムヤウニ成タリ度

會郡モ外宮鎮座以後ノ名ニテ岳仁ノ御時ヨリノ名ニ

ハ非ス雄略天皇^ニ代ノ御宇今ノ外宮ノ神ヲ丹波國ヨリ

遷シ奉リ天照太神ト豐受皇太神ト度會^{ハタ}五ヒテ莫セ

玉フ時ノ義ニテ度會ト号ル由伊勢ノ旧記ニ有リ續日本

紀ニモ載タリ外宮鎮座ハ内宮鎮座ヨリ四百八十年後

ノ莫也今ノ内宮五十鈴川ノ川端ニ鎮座ルレハ河上ノ上

ノ字ホトリトヨムベシ河上トヨメバ五里^{ハカ}湊テ伊雜宮

俗ニ磯部ト云社ノ夏ト成テ日本書紀ニ河上ト有ニ
付テ伊雜宮カ本社成由申フラシ今ノ内宮ト議論ニ
及相方江戸ニテ決断内宮ヨリ上ノ字ヲホトリトヨム
例ヲ引テ申セシ故伊雜宮非義ニ落着ス常憲院
殿御代ノ義ナリ
○中臣祖太鹿嶋命 藤原モ此人ノ末ナレト子孫
神事ニ預ル者ハ中臣ト号シ朝政ニ預ル者ハ藤原ト
称ス爰ハ神事ニ預ル職ノ始ヲ説所ユヘ中臣ト計
書タルソ大鹿嶋命ハ兎屋根命十世ノ末ナリ林春

齊ノ職原鈔聞書ト云モニ鹿嶋大明神是也ト記タルハ
如何成誤ソヤ鹿嶋大明神トハ各別ノ名也又案スルニ大
鏡ニ鎌足ヲ鹿嶋ノ人ト記タルニ先祖ノ名ニ大鹿嶋ノ
命ト有時ハ由来鹿嶋カ本国成シニヤ兎角鎌足ハ鹿嶋
生レト見ヘタリ幸若ノ舞曲ニ大職冠ト号スル由アリ鎌
足ノ父中臣ノ御食子連勅島ヲ蒙テ鹿嶋ヘ下リ四郎
称曰ト呼レ鎌足鹿嶋ニテ生レタル由ヲ作リタルモノア
リ舞拜ハ中古推出シテ諸人ノ聞モ見モスルモノナルニ
如此作りシハ其比追鹿嶋出ノ人トカクサス云タルナルヘシ

勿論鹿嶋香取ノ神ニ天照大神ヲ添夫へ兎屋根命ヲ
イロイ添テ大和国春日大明神トス鎌足ノ先祖ノ仕
へ玉フ所ノ社ナレハナリ

○爲祭主其後葉代々爲祭主

ニツリノ主タリ主ト云ハ主人公ノ義ニテ惣頭ト云義十
リ終ニ其子孫相傳シテ祭主ト云職名ニ成今ノ藤
波家はナリ祭ノ主ト云時ハ伊勢神祭ノ没人有テ其
頭ト云義ナリ祭主ト音ニテヨム時ハ夫ニカ、ハス
職名也但伊勢ハ内外宮共ニ称宣ト云者有テ神最

祭王家

正負称宣
權稱宣ノ下

ノ昇殿ハ称宣ニ非レハ不許權ノ称宣ニ神スレハ階
ヲ昇ル莫ク得ル也禁中ヨリ仰付ラハ、祭主ト云
へ正伊勢ノ權之称宣ヲ兼サルユ正昇殿ハサテオキ階
ニ昇ル莫ク不得神祭ノ時ハ階ノ下ニ立也然レハ禁
中ニテ祭リシ時ハ免モ用モ伊勢へ移シテハ禁中ニテ
祭リ玉フ祭使ノ主ト云義ニテ惣神官ノ主ト云義ニ
テハナシ今ニ其通ニテ内外宮共ニ正負ノ称宣十人
宛昇殿ス其長官是一ノ称宣ニテ御神体ニ身ヲフル
、莫ク得祭主并ニ大官司ハ勅命ヲ宣ル迄ニテ昇殿

大官司ノ下

ハ雖可今神祇伯ヲ遣ハサレ又大臣納言ヲ遣ハサレ
テモ伊勢ハ伊勢ノ法ニ任セテ昇殿ハサセサル也是神
鏡日本百王ノ太祖ノヨクナルカユエニ其法嚴然トシ
テ外ヨリ動ス莫不成也

○朝廷波置官以後 官トハ神祇官ナリ右ノ如ク
崇神ノ時官ヲ立テ神代ノ鏡劔ヲ伊勢ニ治ルユエ
垂仁凡五年 禁中ニハ神祇官ト云フ置テ其ウツシ
ノ鏡劔ヲ祀玉フ莫公卿補任ニ見ヘタリ此時神祇官
ノ方ニテハ其鏡劔ヲ祀ル頭ヲ立テ子バナラヌ是ヲ神祇

伯ト号ス昔ハ祭主ノ頭分トナリタルカ伯ト祭主ト相
分レテ伊勢ト禁中ノ鏡劔ヲ掌ル然レ伯ノ職ヲ見ル
ニ替リタル莫無掌ル莫古ヘノ祭主ト云勤方也故ニ掌
ル莫祭主タリト云

○然乃其職已一本

其職トハ伯ノ職ト祭主ノ職ト也分レサル時ハ一人ノ
職也分レタルニ依テ禁中ノ伯伊勢ノ祭主ト云一本一体也

○然乃祭官之職者

祭官ハ遠ヲ追ノ政ノ元ナレハ上古ノ重任也ト云ツ

○又神國之故

神祇官ノ始ニ此語有少々文ノ上下シタルニテ也前後
ニ同又有ハ神事ニタツトキ更ニシテ末代迄輕忽ナ
ラシメサルタメテ寧及霞ニ書タルナリ○置ト云文字一
本ニ以ニ作ル本ハ不用

伯一人

伯ハ明也主也凡註シテ上ニ立ノ我河伯ト敬イ或ハ詞
伯ト崇メテ書伯ト同ク神事ノ長官ナレハ夏ヨ明白
ニトイテケカレサルノ我惣シテ諸官次官判官

主典是ヨ四分ト云長官ヲカミト訓シハ省ニハ卿ト称シ
臺ニハ尹ト称シ諸寮ニハ頭ト称シ諸職ニハ大夫ト称シ
四府ニハ督ト称シ兩府ニハ大將ト称シ国ニハ守ト称シ太
宰府ニハ師ト称シ扱ニ分ノ官トテ次官ナキ役所アリ夫レ
ニテハカミヲ正ト称シスケセウ任ニナキ役所ニテハ監杯
云字ヲカミト称スニ分ハ主水司杯司ノ字ヲ書役
取也二分ハ首ヲ書ク主馬署杯云役所勘解由杯ノ類ハ
直ニカミヲ長官ト書也次官判官主典モ其役所ニヨ
リテ文字ヲ替ル其替目訣ケハ官舎多ク且不分タメ

ツル所ハ長官次官判官主典ト云ヨリ外ハナシ其
心ニテダニ見レハ濟ナリ長官ハ一没所ノ頭次官ハ其差
次判官ハ一没所ノ惣世話人主典ハ物書没ナリ没所
多キナレハ各一人宛ニテハ不濟故ニ其手替ヲ勤ル推官
ト云モノヲ任ス推ハ推柄ノ權ニ非ス假ノ官ト云心ナ
リ異朝ノ官品モ各如此其官舎ニヨリテ字ヲ替テ
早ク合点ノユクヤウニ取廻シ置タルモノナリ

○神祇伯 如此ノ職掌ハ官負令ニ見ヘテ神祇祭
祀ハツリ稱宣祀部ノ夏諸國ニ有ル神戶カニヘト云テ夫々ノ社

ノ神領ニ有ル百姓ノ名帳大掌會新掌會毎年ノ鎮
魂末シツメニ至テハト兆ノ夏ヲ七其下没ニト部有テ勤
ルニハ其ト部ノ輩ヲ七伯ヨリ支配スル也此職右ニ云
ク始テ神祇官ニテ繼體天皇ニテノ御宇神祇伯ト云
名目起レリ中臣ノ家ヨリ是ヲ勤シニ天延年中冷泉院
御宇
大中臣ノ親定卿任之ヨリ後ハ大中臣ハ不任上古ハ祭
主ト兼官ニシタル時モアリ又大中臣兩家ニ分レ祭
主ト伯ト別ニ勤タル夏モアリ聖武天皇四十
五代天平十三年
以来巨勢氏石川氏文屋氏橘氏田口氏在原氏高橋

氏藤原氏安倍氏等打混シテ勿論中臣モ其中ニ
交リテ任シタル夏ナルカ天延ニ右ノ通大中臣不_レ任_レ也_ヤ
ウニナリ今ハ花山院_{六十}ノ御子孫神祇伯ニ任ス氏ヲ
不賜諸王ノ列ニシテ天子ノ諸神御遙拜ノ御手代
トシ玉フ夏也夫レ故氏ヲ不賜ト云分ニテ重キ職ニ
ハアラス今ノ白河家は是ナリ古来ヨリ一人ニテ権
ヲモ不置官ナリ

○相當從四位下

此相當唐名_凡ニ親房卿ノ本ニハナシ後ニ加ヘタルモ
ノト見ヘタリ唐名ヲ不_レ引_カ叶ハ又所ニハ此官ハ周礼ノ何
々_束ハ唐ニ何ト称ズ扱ト本文ニ載_セ相當ヲ論セサレハナラ
又取ニハ大副ノ条下ニ相當從五位下也ト本文ニアケタ
ルニテ可知

△相當ト云ハ官位折中ノ称ニシテホトヨクツリ合スル
号ナリ此相當ノ道理トクト添サレハ官職ノ書ハ取廻
シ難シ元来位ト云ハ古来ノ知行ノ名ニテ正一位ト仰
付ラルカ昂八十町ノ田地ヲ其人ニ下サルノ義也是ヲ
位田ト号ス近代ノ学者者心得遠テ位田ト云ハ位ニ付タル

田地ト講ス其ハ幾ニテハ十ニ位田ト云ハ田地ニ付テ八十所
シ正一位ト云七十四所シ從一位ト云六十所シ正二位ト云五
十四所シ從二位ト云四十所シ正三位三十四所從三位廿四所
正四位二十所從四位十二所正五位八所從五位ト称ス女ハ
其三分一シ減テ賜ル六位以下ハ位田ナク末代ニテ功米取
也親王ハ一品八十所二品六十所三品五十所四品三十所也譬言ハ
八十町ト云時ハ稻四方東ニ當ル正米二千石ノハ幾ニテ是シ
叔ヲ去テスリ立タルギ也一町ニ付テ五百束ヲ取一束ト云
ハ摺立タル米五升ノ積リ也其通知行ヲ下サル、ユヘク

ラヒト云ハクライモノ、下畧是ヲ誥置取ヲモ又下畧シ
テクラト云其知行ノ高下ニテ冠服モ令限相應ノ
定有リ座列モ知行高上ニ付也依之位ヲ下サル、
時ハ位記ト云テ大政官ノ官人列書ニ天子御請印
トテ天皇御璽ノ神璽ヲ按捺シテ下サル、也官ヲ
仰付ラル、ニハ此幾ナシ只宣旨ト称シテ大政官ノ連
書ニ不及上卿一人ノ名ヲアラハシ奉ウケタマハリタル藏人ノ弁ノ
名ヲ書載タル迄也神璽モ大政官ノ印モ按捺セス
當時武家ニテ新地ヲ下サル、時御朱印御墨印杯

按捺シテ下サルレ何程重キ没ヲ仰付ラル、ニテ御
朱印御墨印ノ免ハナシ是レ位ハ知行ニシテ官ハ没ナ
ルヲ古ノ主政ノ免モ末代武門ノ政道モ其免ニ於テハ分
ル免ナシ正政衰ヘ位ト云ハ只名目ト成テ上下格式ニテ
ニ称シ有名無實ト成シ故武家杯知行ハ十カ石位ハ
從五位下杯云ヤウニ成タリ譬ハ一位ニ成テモ漸ニ千石
ノ苦也古今ノ変如此神位ト云テ朝廷ヨリ正一位ト
進セラル、ハ八十所社領ヲ進セラル、免也故ニ伊勢
諾ノ社ニ從五位下ヲ給ルヲ国史ニ有リ末代ニ云如ク格式ノ

神位

夏十ヲハ天子ノ大祖ヲ從五位下トセニヤ社領ヲ八十所付
ラルト云免ニテ夏ハスムナリ然ルニ天下ノ社人無文的
ニシテ猥リニ神位ヲ願一社ノ光トセント欲ス吉田ノ筆杯
其虚ヲ伺テ私ニ神位ヲモ授ラル、可忍之誰不可忍
ヤ扱役義ヲ仰付ラル、ニ小知行ノ人ニ大没ヲ仰付ラレ
テハ勤カヌルモノ之依之賄賂ヲモ取其下ニ支配セラル、
者ヲモ痛ル難アリ又高知行ノ人へ輕キ没ヲ仰付ラレ
テハ不足ノ情有テ奉公ニ忠ナル者又ナシコ、ヲ以テ
何没ハ八十所取者ニ相應ト極メ何没ハ六十所取者ニ相

應上極ノ稱ヲカケタル如クツリ合ノ悪クナキヤウニ文武
天皇^{四十}_{二代}ノ大宝年中其ツリ合ヲ定テ記サセ玉フ
ヲ官位令ト云官ト位トツリ合ノ令也亦ニ小知行
ニテ大知行^{ノ敬}ニテ大没ヲ勤ルハ立身ノ本ナレハ其身ノ規
模ナリ是ヲ高官下位ト稱シ中ニ守ノ字ヲ加ヘテ書五
位ノ相當ノ官ヲ六位ニテ位スレハ六位守何ノ官トノ
義也守ハ官高ケレトモトノ位ヲ守テ高フヲサレノキ
又位勝官劣ノ時ハ行ノ守^{三字敬}ヲ書位行官ト書也是ハ
位重ケレト此没義ヲ不足ニ思如法ニ行フトノ義也

墓銘位署式

如此ツリ合ヌヲ不相當ト云相當ノ時ハ兼官後位ト
記シ不相當ノ時ハ兼位後官ト記ス夫レモ死シタル人
ノ事ヲ書或ハ墓銘杯ニハ相當不相當ヲ不論前官後
位ニテ勿論守行ノ義理イラガレユヘ行守ノ字ヲ不用是
古實ナリ杜氏通典杯ニモ委ク見ヘ日本ニテモ隨唐ノ
例ヲ以テ定之近代上々ノ墓銘或ハ行狀杯存生ノ
如ク行守ヲ用テナシキ職原鈔ノ後附杯ヲ見テ
位署書シタル例多シ可笑ノ甚キモノ也並河五一郎カ
立タル撰津國河部野ニ有ル北畠顯家卿ノ墓杯比日

此類也公家衆ノ石碑淨花院廬山寺等ニ有リ何
モ不_レ宣公義御代々ノ御棺ノ書付玉露葦取杯ニ見タ
リ_レモ訣ノ立タルハナシ公義ノ儒者_ノ和学無_クモ通典
ニテモ能見ラレタ_ラバ如是ハアルマシキニ残念ノ義也世
儒相當ハツリ合_トセ_ル名目ト古又_ク不知從四位ニ
相當ル杯ト点ヲ付タルモノタタシ相當ルニテハナシ能程
ノツリ合カ從五位ト云義ナリ

○近代至ニ三位帶之 相當ハ從四位ノ官ニテ有_レ
凡近代ハ二位三位ニ至_ル迄神祇伯ニテ居_ルトノギ夫_レハ

何故ナレハ白河家外ニ官ニ不_レ注_シ一生神祇伯ニテ終_ルユ
ハ他官_ハ昇進スルト云夏ナキヲ以_テ位階也凡不_レ進其
身不_レ立_テ是カ昔ヤウニ神祇伯ヨリ外ノ官ヘモウツリ
任スルナレハ二位三位迄ハ此官ヲカケテハ居サレモ右ノ
訣ニテ二位三位ニ至_ル迄帶之也從四位ハ上下共ニ二十所
ノ位也然_レニ三位ニナレハ從三位ニ成_テモ七十四所若正
二位ニ成_ハ六十所六十所ナレハ從四位トハ三人前ノ取物ナリ
如是位階ヲ進_テ其言ヲ不_レ替也誰カ任_シテモ不_レ苦ト云
ハ官ヨリ官ヘウツルユハ此義ナシ白河家任_之ニテ他

家不任之ト云ヨリ後次第ニ如此ト見ルヘシ
○帶之 是ハ伯ヲサス位階高クシテ相當ノ早キ官
ヲ任スルヲ帶スト云夫故兼帶ノ官ト云時ハ正官重
ク兼官輕キ時ノ詞也

○唐名大常伯 壺井氏唐名ノ二字ヲカラナト
ヨレシハ是迄ノ俗名ニ從シ也カラナト極リタル名
可有ヤウナシ唐ニハ何ト名付ト代ヲ指メル詞ナルヘシ
大常伯ハ唐ノ百官志ニ龍朔年中ニ有ル所ノ官名但
夫ハ龍朔二年尚書ヲ改テ大常伯トスト有リ然レハ

此官ニハ合難シ大政官ニハ合也ト壺井氏ノ説ナリ惣シテ
諸官ノ長官ヲ尚書ト号スルカニモ尚書省ト云時ハ
大政官ノ夏ナレ既ニ吏部尚書ト云ハハ式部卿也戸
部尚書ト云ハ民部卿也龍朔已前ハ大常尚書ト云
シヲ龍朔二年ニ大常伯ト改ラレタル由唐官儀ニモ見
ヘタレハ是ヲ大政官ノ夏ナレト云説ハ今不取之但日
本ノ神祇官ノ如取扱ノ設所ハ異朝ニ無レハ元ヨリ
唐ニ名付ヘキ引當ノ名無キ筈ナリ
○又大卜令 是ハ此設取ノ下知ニ從フト部ト云者

ノ職ニテ其ト部ノ頭ヲ長上ト号ス全ク其長上ノ義也伯ニ不合ニ合ニ伯ヲ大ト令ト書シテ見テ古田家先祖代々ト部ノ長上ニ補セラル、ヨリ先祖ニ神祇伯モ有タルヤウニ是ヨリ紛ハシテ系圖ニモ神祇伯ト書神祇官ト部長上ト部ノ宿称誰ト可書ヲ神祇官ノ長上ト部ノ宿称拓ト書ル、又紛敷也夫レ上ト部ト書ハ職名也下ニ有ト部ハ姓ナリ夫ヲ一ニシテト部長上ト可書ト部ノ字ヲ抜テ神祇官ノ長上ト書又甚可惡也神祇官ノ長上ト云ハ神祇伯也又伊勢内

外宮ニテ一ノ称宜ヲ長官ト号ス夫ヲ殘ル称宜ヨリ伯ト呼ヤウニ成タリ彼等カ長上ハ伊勢称宜ノ長上也何ソ神祇官ノ長上タル伯ノ名ハ不可犯人ヲ誣ル又ヨ疎ム神夫レ是ヲ悅ニヤ

○祠部尚書 無理ニ引合セハ是ハ不合ニテモナシ
尔レ日本ニ格別ノ神祇官ノ有ナレハ差置テ不_レ論

昔者諸氏混任

此昔ト云字天平四十五代 聖武帝十三年ヨリ万壽六十八代 後一条帝年中
迄ヲ指テ云上代ハ中臣ノ家ヨリ外ハ不任ノ官也尔ル

二天平十三年已來諸家ヨリ是ニ任シタルニ大中臣ノ親
定已後中臣家ニモ不任之又万壽ヨリ後ハ外ノ氏ノ
昔人任之白河家而已ニモ不限夫故万壽ヨリ前ハ諸氏
混シテ任スト書也混ハ入交リテアレコレカ任シタルノ後
ナリ

○或又大中臣氏 大中臣ト云ハ繼體天皇^{ニ十ノ}御時
伯ヲ任セラル、最初是官ニ任シテヨリ代々任スヘキ
家柄ノ人ニテ諸氏混シテ任スル時モ入交リテ此家
モ伯ニ任シタリルハ諸氏ト云内ニコセハ昔ナレト是カ

伯ニ任スヘキ本家ナレハト別ニ目ニ立ヤウニト取分テ書
タルモノナリ

○任之 官ヲ給ルヲ任ト云位ヲ賜ルヲ叙ト云叙ニ
ハ名目群ク官ニハ名目多シ所謂勅任奏任判任權任
遷任轉任杯其外モアリ相當無官ハ補スルト云是モ
ホスルト云ヨミカヨケレト自昔フスルトヨミ來レリ

○中古已來 壺井氏說ニ惣シテ此段ハ三十九字
帝王編年記ノ文ヲ取テ少ク、遠テ書タルト云夫レ
ハサモ可有親房卿必シモ編年記ノ文ヲ便ニシテ書

補

タルニモ不可有

○花山院御子

花山院ハ六十五代ノ天子撰政兼家公及安倍ノ精明ニハカウレシ十八歳ニテ位ヲ退キ玉フ夏古事談ニ見ヘタルカ如シ依之御子清仁親王彈正尹ニ任シソノ子康資王神祇伯ニ任ス伯ハ天子ノ御子代トナリ天神地祇ヲ可拜ノ伯ニナリ彈正尹ノ事ハ其下ニテ弁スヘシ
清仁ノヨミ一説キヨヒト一説スミヒト一説スカヒト 如是不決又古書ノ假名物ニカナシテ書タル證據見ヘサル名ハセイニシト音ニテノ讀カ習ナ

リ右康資王ヨリ代々相續ニテ他人ヲミテ任セシメス

○彼流四五品之時

白河家ノ夏ナリ古本品ヲ位ニ作ルヲ是トス品ハ親王ノ位ナリ清仁ノ子ハ諸王ナレハ臣下ノ列ナリ何ソ品ト云ニヤ親父伯ニテ存生ナレハ其子ニ成道ノ内改テ一度源ノ姓ヲ玉リ中少將ニ任ス若シ是モ父病身カ隠居カ死去カナレハ伯ニ任セサレハナラヌユヘ源ノ姓ヲ戻シテ諸王トナリ伯ニ任ス本文ニハ中少將ト計有レ侍從少將中將ト上ル也惣ニテ自身ニハ白河三位ト

人ニ對シテモ云斥外ヨリ貴テ伯様ト稱シ其同列
ヨリハ書狀ニモ伯ノ三位敬伯ノ二位敬ト書ル伯ハ
二人無故マキレサル故ナリ

○復干王氏 復ハコナラカアチラヘカヘルノ文
字諸王ヨリ源ノ姓ヘ行シカ本ノ姓ヘモトルトノギ

○日本ニテ王氏ト云氏ハナシ氏ヲ賜ラヌ諸王ナリ
異朝ニハ王ヲ以テ氏トスルアリ夫ハ王義之王陽明
杯氏ナルユ正名ノ上ニ被ラシメ日本ノハ王ヲ賜ヌ正
諸王ト稱シテ天子ノ御ツメノハシト云ギヲアラフハ

王氏ノ下

サニタメ雅喬王雅冬王今ノ白河雅富王ノ類ノ如シ名
ノ下ニ王ノ字ヲ書スルニ昔ヨリ記録杯ニモ是ヲ
大王氏ト書ス王若氏ナラハ日本ノ天子ノ氏モ王
氏也ヤ日本紀令ニ王氏ノ号ナシ中古以後ノ書ニ諸
王ト可書ク王氏ト誤リ伊勢ヘノ勅使諸王及ニ姓ノ
筆ト可書ク中比ヨリ四姓ノ使ト呼来ル夫レモ王氏
大中臣齊部ト部是ヲ四姓ト覺タル故也王ハ姓ニアラス
氏ニアラス皇孫遠末ノ稱ナリ今尚公家ニテノ王氏ト
稱セラルハ古書ニ疎キユヘナリ加掾ニ一タシ若キ内

源ヲ給リテ他官ニ任スルキ又王氏ニ復スルキ顯康已
来ノ例ナリ夫レユ正近例也ト書タルソ是ト云字源ヲ
玉ハリ王氏ニ復スルノギヲ指タルソ顯康ハ清仁ノ四
代也此時分ニハ受領ニモ任シタリ其子顯廣王近ハ
伯ニテ三位ニ不任其子仲資王ヨリ三位ニモ二位ニモ成
テ此官ヲ帶スル莫ナリ子細ハ公卿補任ニ見ヘタリ
大副
副ハ貳也ト註シ伯ニ次テ莫ヲ勤ム又伯ノ替リヨモ勤
ム譬ハ一本ヲウツスニ用心ノ爲又一本ヲ擄置ク副

本ト称スルカ如キ伯ノ指支ヘ有時其代役ヲモ勤常
ハ伯ノ下知ニ從テ神祇官ノ莫ヲ勤ルヲ何レノ官
ニモ次官有紛レサル爲ニ次官ノ文字ヲ替ヘ此設取ニ
テハ副ト云カ次官ニテ莫ニ云スケ也設取廣クハ其ハスケ
ニ大小モ權モ有也大副一人推大副一人座席ハ位階次
弟權ト云ヘ氏位階高ケレハ上ニ付權ハカリノ心也
○唐名ハ何レモ不_レ合別ニテ大常卿是ノ卿ノ字不
合モトヨリ合又莫ナレ氏_ヲ押テ引當テ見ハ卿ハ伯ニ
當ルヘシ

○祠部外郎 権ノ大副是モ押テ引合ハ唐ノ史部負外郎ニ合ヘキカ

○相當從五位下也 相當ハツリ合ヲ云ナリ從五位下ニテハ町程取人ノ勤テヨキ程ノ官ト令ニ有ル相當ニ及ヘ出シテ後世ニ位ニ成テモ帶之訣ヲ評スル也

○然而任祭主 右ノ通ニテハ有レヒ祭主ト云テ継体帝ノ取ヨリ任ニ來ル伊勢ノ夏ニ預ル大中臣氏子孫ニ位ニモ二位ニ

ナルユヘ祭主ニテ此官ヲ兼帶スレハ二三位迄帶之今ノ藤波家祭主ニテ二三位ニ至ルテウト神祇伯ノ二三位ニ至ルト同ク其人ヲ不任其家ヲ任スルヤウニ成テ如此其内伯ハ諸王ニ任スル所ナレハ論ナシ副ハ諸氏ノ内極テ是ニナル家柄ニ家アリ

○多是四位五位任之 是レ祭主ニナラサル家ハ此官ニ任シテ又外ノ官ニモ移ルユヘ四位五位任之トノ義也 ○大中臣齋部 大中臣ハ今ノ藤波家也齋部是ハ太玉命ノ末ニテ中比迄ハ其家モアリタルカ段々レ

イ落シテ断絶シテ今ハ一家モナシ伊勢ノ四姓ノ使
モ齋部代ト云者ヲ用是血脉断絶ノ故ナリ

○ト部 ト部ハ三等アリ壹岐ノト部伊豆ノト
部對馬ノト部ノ三等アリ今ノ吉田ハ伊豆ト部也
大中臣齋部ト部ノ類ハ我行フ行事ニ依テ号ル氏
ナレハ四姓ノ内行事ノ姓是ナリ
○三姓之人任之 日本ノ古實ノ天子始テ玉儿所ヲ
姓ト云子孫傳ヘテ氏トス譬ハ清和天皇五十一代ノ御子
貞純親王ノ子經基王ニ源ノ姓ヲ賜リ子孫傳ヘテ清

和源氏ト称ス故ニ古書ニ姓ノ源氏ヲ賜フ姓ノ平氏
ヲ賜フ杯ト書ス又其氏ニ依テ先祖ノ出所ノ善惡
ヲモ知ルユ是ヲ出自ト号ス今俗ニ筋目ト云是ナリ
氏ノ字出字元來同字ニテスノ韻ノツク字也出ハ
シトヨム是ヲ堅ニスレハ氏横ニスレハ出也スルニ末代ノ
學者姓ハ源氏ハ松平杯ト心得タルハ辟夏也松平小
松杯ハ称号也姓ニテ七氏ニテ七十シ

少副

セウトヨムヘシ大副ニ付テ神祇官ノ政ヲトル

○権少副 少副ノ年替ナル莫大副ノ義ト同シ惣
シテ正権大小共ニ掌事同シ

○唐名大常少卿 是ハ少ニ限リテ不可云若推
テ唐名ヲ引當テハ大副少副共ニ可當

○相當 是古令ニ定ラレタル相當正六位上ナルニ
親房ノ近代五位ノ官ノ様ニナリタルヲ論スル也尔
レ氏本ヨリノ相當ヲ改テ五位ノ相當トセラレタル
ト云ギニテハナシ昔六位田トテ從五位下ニナレハ極テ
八町下サル、ギ成故實事ヲ以テ位ニ進吉モ重カリ

シ也武家権ヲ取テヨリ次第ニ此沙汰廢リ位ハ有名
無實トナリ知行ハ別ノ莫ニテ夫レモ始ハ位田何十
町ト云名ニスカリ知行何町ヲ賜ルト云ニカ次第莫
賤成何町ト云名モスタリ何百貫ノ地ヲ玉フト田地ノ
代付ヲ以テ呼ヤウニ成又一等賤成テ直ニ米ヲ指テ
何百石或ハ何千石玉ハルト云名目行シ今ハ直ニ米數ヲ
云ヤウニ成テ是ヲ稱スル莫耶ノ如クモナラズ古ハ十町
玉ハルヲ正一位ト云ニト後世何千石玉ハルト米ニテ云ト
其名品ノ衰タル莫甚カナ親房卿ノ此位ハ格式ノ名

而已ニテ實物ヲ宛行サルニ祐史共ニ六位ノ人任ス
爰以テ夫ヨリ上ニ立稱ナレハ五位ノ人ノ任スルヤウニ
成タルニテニテ此官カ五位ノ官ニ成タルニアラス
○三姓之人又任之ハ大是ハ大中臣齋部ト部ノ三
姓ナリ

祐

惣ニテセウト云ハ和訓マツリコトヒト是其没所
惣世話ヤキニテ政務悉ク掌ル譬ハ神祇官ノ表向
ノ夏ハカニスケ預リ神祇官一没取ノ夏ハ祐カ預ル

ト見ルヘシ何レノ役取ニテモ其通也職負令ニ惣シテ
神祇官ノ内ノカキモノ宿直ノ輩ノ夏凡ニ宮中ノ夏
ヲスヘ掌職ト見ヘタリ
△諸役取多キユエセウト云字文字ヲ替テ書サレハ
紛ル也八省ノ悉杯ハ左モ有ヘケレ此祐ノ字扱諸寮ノ
先国ノ掾杯ハセウトヨムヘキ音ナシ又和訓ニテモ十
ニ和訓ニテ無證據ハ諸寮ノ判官ヲハナシテ外ノ夏
ニセウトヨミタル夏ナシ掾ノ字モ其通也是等ヲ擬
訓ト号ス惣体_{和訓}ノ遣カタハ例アリ其内是等

シ擬訓ノ例ト号ス擬訓トハ如何成ヌナレハ長官
次官判官主典此四ツヲ天下ノ大義ニ當テ云時ハ天子
ヲ長官トシ皇太子ヲ次官トシ是ハ何時ニテモ天子ノ
御替ヲ勤玉フユヘ也大臣ハ判官トシ内記外記等ヲ
主典トス如此立置テ其訓カ音カヲ假テ諸官ヘ配
付テ準^{ナツク}讀也其内大臣ヲ丞相ト号ス其音ヲ假テ
諸官ノ判官ハ文字ヲ音ニモ訓ニモカハハラス何レモ
セウトヨム也音訓ニカハハラス準テヨムユヘ擬訓ト云ソ
○大祐少祐 相當ハ本文ノ如シルルニ近代五位ト

云ギハ上ニテ云如ク位田ノ實事ヌタレタルユヘ也刺ヘ
上代六位ト云モノモ正從上下ノ差別ナク正六位トヨ
リ進ムハハケモナキヌ成タルトノ義也百二十年已來正
從上下能分レ中々等越テ始ヨリ正六位上ニハ難成況ヤ
近年七位迄置ル上ハ古風ヲ存シテ後ニハ八位九位モ
出來ヌヘシ九位ヲ初位ト云ト心得ヘシト云
○以前ニ姓及
以前ノ三姓大中臣齋部ト部也此及ト云字ハ並ニ
ト云心ニ見ルヘシ大中臣ト中臣トハ内流別派ニシテ

其中之家頭ヲ以テ大中臣ト称スレハ也

○中臣者本大中臣一種也

是ヨリ神祇官ヘカ、リヌル文ニアラス大中臣ノ外ニ中臣ト云々有リ以テ其云々ヲ釋スルナリ中臣ト云ハ神代天兒屋根命ノ裔ニシテ神德ヲ天子ヘ傳奏スルノ職ノ家ニテ神ト皇トノ御中ヲ勤ルニ依テ大中臣ノ本系牒ニモ中良振人中臣ト云神事ニ預ル本家ナリルルニ神護景雲四十八代 稱德帝三年六月中臣ノ意養凡ノ男清曆中納言ノ時中臣ノ姓ニ大ヲ加ヘ玉フ後右大

ナカラフルヒト

オミ



臣ニ至ル是ヨリ同血脉ニテモ此清曆ノ家ヲ本家トシテ大中臣ト号ス其外皆鹿流トシテ大ノ字ヲ玉ハラサルユヘ只中臣ト計称スルレハ中臣ノ中ノ本家ヲ大中臣ト号シ其中ノ同流別派ヲ中臣ト計称スルユヘ中臣ハ大中臣ノ中ノ一種也ト書タル也尔レハ中臣ト計ハ鹿流ト見ルヘシ

○中臣清曆

清麻呂右大臣ニ任スルノ時トハ非也右大臣ト云ハ極官ヲ書タルモノニテ此時ハ中納言也右大臣ニハ其後

戦皇抄誤

宝龜

四十九代
光仁帝

二年ニ任セラレタリ

○其鹿子

鹿流氏云

○苗裔

是ハ其出ル所ノ苗ハ一根ニシテヒロカ

ル所ノ裳ハ別ナリト云心楚辭ノ註ニ遠末子孫ノ
稱也ト有モシカリ

△壺井氏ノ点ニ中臣者本メ大中臣ハ一種也ト書此
心ハ全体其本カ中臣也夫レハ加ヘ玉ハリタル大ノ字ナレ
ハト穿鑿ニタル点ノ付ヤウ也タトヘ左ヤウニテモ本
文ノ文字其如ニハヨシレサル文ツ、キ也本ヨリ本家

史

ノ中臣ヘ大ヲ玉ハリタルナレハ古点ノ通讀テ濟也

サクハント云訓モヨミニテモ音ニテモナシ是ハ例訓ト

云モノニテ擬訓トハ又訣モ遠タリ天子ノ言ケシ動

ハ右史左史必是ヲ記スト云モロコシノ例アリルハ

玉座ノ左右ニ史官有テ記之ナレハ其例ヲ假テ

執筆ノ職ヲ左右官ト例ヲ假テ讀也サレハ古

今和歌集ノ序ニモワイノサウクハニミツ子ト書

タリ其サウクハニシ界語ニテサクハント讀サウクハ

シノウノ字ノツメノ落タルヲ讀誤ニテサツクハ
ニト讀來ル人有誤ト可云擬訓例訓正訓轉訓
及訓倒訓直訓梵漢訓凡テハツハ日本ノ古訓ナ
リ其訓ヲ分メサレハ和訓ハ取廻シカメキリ惣
体此史願書ヲ讀上云渡ヨモ讀ワタシ留帳ノ
夏モ奉行シ書出ス夏又ヨモ掌ル也職負人ニ
見ヘタリ

○唐名大常主簿 簿ハ日本ニテ云帳面ノ夏
ナリ夫ヘ書記ス夏又ヨモ掌ルトノ義ナリ惣体没所

流内流外

々々ニ流内ノ官流外ノ官ト云義アリ扱被官被

一本作管

接ノ官ト云モアリ此四ツヲ分テ知ルヘシ除目ノ時
大間ト云書モノニ載テ任セラル、已上ヨモ流内ト云
神祇官ニテハ此史迄カ流内ノ官也此外カニヘクハシヨウ神部官掌
下部使部直下扱有リ令ニハ載タリ是等ハ輕キ職
ニテ大間ニ載セス流外ノ官也又上没取アリ其下ニ
使ハル、没取アリ主計寮主稅寮扱ハ民部省ヨモ上没
取トス民部ハ民戸ノ夏又ヨモ掌リ後世ノ地方奉行ナリル
二年貢ヲ納ル時主稅ハ米ノ善惡表ノ善惡ヲ吟味シ

主計ハ升目ヲ糺シ俵ノ多少ヲ吟味ス是外ノ役
取リ上没ニシテハ勤ラウ又没取也極テ民部省ニ
管セラシ子ハナラヌ又且被^{本行管}管官ト称ス中務官内ハ
其ニ禁中ニ而已カ、凡役取ニテ天下ノ政事ニ不預此
下ニアル寮司杯ハ是道中務ニ接ラレタ^{ツケ}ル官ナレト
向後ハ宮内ニツケラルト云ヤウニ時ニ依テ上没取
ヲ替ラル、又右ヲ被接ノ官ト世俗誤テ被接ノ
官ヲ多ク

但被管モ被接ノ官モ才モ没取ノ下ノ別
役所アラサレハ称セズ譬ハ神祇官ノ下ニ神部ト
部ノ多クイ有ハ輕ケレト直ニ神祇官へ勤テ別
役取ハ十三史已上

職原鈔上之二卷

